

## 目 次

1	あいさつ	東京都小学校国語教育研究会会長	篠原 敦子	2
2	祝 辞	東京都教職員研修センター企画部長	小島 貴弘	3
3	研究大会開催に当たって	研究大会担当副会長	河村 祐好	4
4	研究大会要項		(事務局)	5
5	研究主題について	研究担当副会長	河村 祐好	6
6	研究部実践報告			
	◇ 話すこと・聞くこと部	部長	加賀田真理	8
	◇ 書くこと部	部長	風澤 明子	16
	◇ 読むこと部	部長	古谷 勉	24
	◇ 言語部	部長	小川 和美	34
7	研究の成果と課題	研究担当副会長	河村 祐好	42
8	各研究支部研究主題一覧		(事務局)	43
	あとがき	編集部長	小池 隆一	45

### ——表紙写真——

本校の校舎は、復興小学校最後期の建物で、モダニズム建築の先駆けと言われた白い洋風建築の校舎です。平成17年に東京都選定歴史的建造物に指定されています。開校当時は、品川の沖を通る、大きな外国船のように美しいというので、「陸の白い巨船」と言われたそうです。北原白秋作詞の校歌にも、「清明 海にのぞむ 白き姿」とあります。

# あ い さ つ

東京都小学校国語教育研究会 会長 篠原 敦子

東京都小学校国語教育研究会では、これまで「豊かな言語生活を目指す国語教育の創造」（平成7年度から平成9年度）、「生きてはたらく言葉の力を育てる国語教育の創造」（平成10年度から平成13年度）、「新しい世紀を担う学びの創造」（平成14年度）、「言葉の学び手が育つ国語教育の創造」（平成15年度から平成26年度）、「未来を拓く国語教育の創造」（平成27年度から現在）と時代の変化に伴い、研究主題を新たにし、先進的な国語教育の研究に努めてきました。

新学習指導要領が告示され、移行期の1年目となった今年度は、昨年度からの研究副主題「主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり」をそのままにしつつ、内容を新学習指導要領に則って研究を進めることとなりました。

学ぶことに興味・関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。子供同士、教職員や地域の人々との対話などを通して自己の考えを広げ、深める「対話的な学び」が実現できているか。習得・活用・探求という学びの過程の中で、国語科の「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけ深く理解したり、問題を見出して解決策を考えたりする「深い学び」が実現できているか、こうした視点で授業改善を進めてきました。

本会の研究の核に据える「単元づくり」は、これからの教員に求められているカリキュラムマネジメントと大きく関わっていることと考えます。他の単元との系統性を明確にし、子供たちが主体的に取り組むための仕掛けを作り、対話的な学びを位置付け、生きて働く言葉の力を確かに身に付けさせる開発単元の研究を進めてきました。話すこと・聞くこと部、書くこと部、読むこと部、言語部の4部で、1年間研究を進め、深め、その研究の一端を発表できることになりました。

働き方改革が叫ばれる昨今、教員が出張することが難しくなっている現状が見られます。研究員は、自校の仕事をしっかりこなしつつ、研究にも勤しむ姿に、頭が下がる思いでいっぱいです。また、研究員の出張に際して、快く出張を許してくださった所属校の校長先生、同校、同学年の先生方への感謝の気持ちも忘れられません。ありがとうございました。

結びになりましたが、今年度も本会にご支援いただきました日本国語教育学会会長 田近洵一先生、東京都教職員研修センター 所長様 企画部長様 企画課長様、各研究部の講師の先生方、本会及び国語教育に携わる諸先輩の先生方に、心から感謝申し上げます。

平成30年度の総会、研究大会には、文部科学省初等中等教育局教科調査官 菊池 英慈 様にご講演を通してご指導を賜りましたこと、また、研究大会の開催に当たりましては、港区教育委員会 教育長 青木 康平 様はじめ関係の皆様にご支援・ご協力を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

# 祝 辞

東京都教職員研修センター企画部長 小 島 貴 弘

今年度も多くの先生方を迎え、第29回東京都小学校国語教育研究大会が開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、本研究会が永年にわたり、東京都の小学校国語教育の充実と発展に貢献してこられましたことに、心から感謝申し上げますとともに、日頃より東京都教育委員会の施策に御理解と御協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、平成29年3月、新学習指導要領が公示され、今年度からいよいよ移行措置期間が始まりました。今回の改訂では、育成を目指す資質・能力の明確化を図るため、全ての教科等の目標について、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。特に、国語科において授業改善を進めるに当たっては、児童が言語活動の中で「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」、自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力等」を身に付けていくことができるよう、学習指導の創意工夫を図ることが期待されています。そして、言語活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示すため、各領域において、学習過程を一層明確にし、指導事項を位置付けております。

さらに、国語科は、言語能力を育成する中心的な役割を担う教科であることから、教科横断的な資質・能力としての言語能力や情報活用能力等に関わり、今後、言葉を直接の学習対象とする国語教育の果たすべき役割が更に大きくなっていくと考えられます。

このような中、東京都教職員研修センターでは、昨年度、教育課題研究の一つである「『主体的・対話的で深い学び』の視点に立った授業改善－深い学びにつながる授業づくり－」において、児童・生徒に新学習指導要領に示された資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、その具体的な方法を紀要にまとめました。また、今年度は国語に関する教科等・教育課題研修の「国語」においても言語活動の在り方や授業改善の視点について等の研修を行い、国語科の授業改善の方法等を示してきました。

本研究会では、「話すこと・聞くこと部」、「書くこと部」、「読むこと部」、「言語部」の四つの研究部会において、これまでの研究成果を踏まえて実践的な研究を進めるために、「未来を拓く国語教育の創造－主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり－」を研究主題として研究を深めてこられたことは、まさに、新学習指導要領の内容を見据え、時宜を得たものであり、今後の国語教育の創造・発展に資するものであると言えます。

御参会の皆様におかれましては、本大会を優れた実践や研究から互いに学び合う機会として、その成果を各学校に持ち帰っていただき、児童の国語の力の一層の定着と伸長に向け、国語教育の充実を図っていただきますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催に当たり、御尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本研究会のますますの御発展を祈念して、お祝いの言葉とします。

# 研究大会開催に当たって

研究大会担当副会長 河村 祐 好

平成30年度の研究のまとめとして、第29回東京都小学校国語教育研究大会を開催いたします。全国・都内各校から大勢の先生方にご参会いただき、本大会を開催できますことに厚く御礼を申し上げます。

今年度は、新学習指導要領の移行期間に入り育成すべき資質・能力の三つの柱である「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」の内容や「主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善」をどのように行っていくのかが問われています。

本研究会では、研究主題「未来を拓く国語教育の創造」の下、新学習指導要領に則り、昨年度より副主題を「－ 主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり －」とし、研究を進めてきました。この2年間、自らの課題を発見し、その解決に向けて思考力や表現力を駆使して、主体的・対話的に探究し、学びの成果を実践的に生かしていくことを考えた単元づくりを中核に据えながら、研究を進めてまいりました。

各部会においては、以下の研究主題を掲げ、今年度の研究に取り組んでまいりました。

研究部	各部会の研究主題	研究部長
話すこと・ 聞くこと部	主体的に話し合い、自己充実を目指す児童を育成する単元づくり	昭島市立富士見ヶ丘小学校長 加賀田 真 里
書くこと部	児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり	葛飾区立南綾瀬小学校長 風 澤 明 子
読むこと部	主体的・対話的で深い学びとなる読むことの単元づくり	新宿区立余丁町小学校長 古 谷 勉
言語部	言葉のよさに気づき、親しみ、日常生活に生かす単元づくり	葛飾区立高砂小学校長 小 川 和 美

研究成果の一端を発表し、さらなる充実を目指してご参会の皆様と共に考える研究大会にしたいと考えております。

最後になりましたが、本大会の開催に当たり、各領域の研究部において指導・運営にご尽力いただきました方々に感謝するとともに、研究に取り組まれた研究委員の実践に敬意を表します。

また、本会の研究をご指導くださいました講師の先生方、ご支援を賜りました各方面の関係の方々、研究委員を快く送り出してくださいました所属校校長先生方に厚く御礼申し上げます。

## 第29回研究大会 要項

### 未来を拓く国語教育の創造

～主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり～

- 1 日時 平成31年2月22日(金) 13時30分から16時45分まで  
 2 会場 港区立高輪台小学校 〒108-0074 港区高輪2-8-24 電話 03-5447-0616 ファクシミリ 03-5447-5335  
 3 時程 13:00 13:30 14:15 14:25 15:40 15:50 16:45

受付	各部の研究授業	移動	分科会 (研究発表・提案・協議)	移動	全体会・講演会
----	---------	----	---------------------	----	---------

#### 4 公開授業

部	年組	単元名・教材名	授業者・所属校	分科会提案者	講師
話すこと・聞くこと	1	1	単元名 1年生におすすめの本をしようかしよう —相手の話を受けとめて、つないで決めよう— 三鷹市立高山小学校 教諭 柳下 将	全体提案 新宿区立花園小学校 主幹教諭 朽木 良美	都小国研 顧問 邑上裕子 先生
	4	1	単元名 給食調理員さん・栄養士さんにお礼の気持ちを伝えよう —司会者や参加者の役割を意識してすすんで話し合おう— 港区立高輪台小学校 主任教諭 眞熊本 温子	低学年分科会 練馬区立北町西小学校 主任教諭 江口久美子	
	4	2	単元名 給食調理員さん・栄養士さんにお礼の気持ちを伝えよう —司会者や参加者の役割を意識してすすんで話し合おう— 葛飾区立亀青小学校 教諭 三上 絢夏	中学年分科会 新宿区立富久小学校 教諭 丸山 秀光	
	6	1	単元名 より良い公園づくりについて考えよう —考えをまとめるために複数の視点から検討して話し合おう— 新宿区立富久小学校 主任教諭 井上 奈々	高学年分科会 杉並区立杉並第八小学校 主任教諭 伊藤 慎悟	
書くこと	1	1	単元名 高輪台小おはなしランドへようこそ —絵から想像して物語を書く— 港区立赤羽小学校 教諭 清浦 夕樹	全体提案 東京学芸大学附属小金井小学校 教諭 成家 雅史	都小国研 顧問 成家亘宏 先生
	2	1	単元名 2年1組お話ワールドへようこそ —絵から想像して物語を書く— 東久留米市立第一小学校 教諭 河原麻利子	低学年分科会 台東区立立上野小学校 主任教諭 武井 二郎	
	3	1	単元名 ファンタジーのとびらを開こう —物語を書こう— 江東区立第三大島小学校 教諭 望月 美香	中学年分科会 足立区立長門小学校 主任教諭 尾久由有子	
	5	3	単元名 その時、歴史が動いた —自叙伝を書こう— 中野区立白桜小学校 主任教諭 松江 宣彦	高学年分科会 渋谷区立小中一貫教育校渋谷本町学園 教諭 吉田 知美	
読むこと	1	2	単元名 おはなしのせかいをつたえよう ～きりんになりきって そうぞうし、 おんどくはっぴょうかいをしよう～ 学習材「夕日のしずく」(三省堂1年下)	大田区立矢口西小学校 教諭 本條 禎之	都小国研 顧問 岸本修二 先生
	1	3	単元名 おはなしのせかいをつたえよう ～きりんになりきって そうぞうし、 おんどくはっぴょうかいをしよう～ 学習材「夕日のしずく」(三省堂1年下)	足立区立舎人小学校 主任教諭 福田 晴香	
	3	2	単元名 豆太ってどんな子? ～登場人物の人がらを想像し、伝え合おう～ 学習材「モチモチの木」(光村図書3年下)	北区立西が丘小学校 主任教諭 松平 真凡	
	3	3	単元名 豆太ってどんな子? ～登場人物の人がらを想像し、伝え合おう～ 学習材「モチモチの木」(光村図書3年下)	東京学芸大学附属世田谷小学校 教諭 西川 義浩	
	6	2	単元名 私が読む物語 ～自分の読み方を広げよう～ 学習材「川とノリオ」(教育出版6年上)	品川区立京陽小学校 教諭 上野美智恵	
	6	3	単元名 私が読む物語 ～自分の読み方を広げよう～ 学習材「川とノリオ」(教育出版6年上)	杉並区立荻窪小学校 主任教諭 大木 美沙	
言語	2	3	単元名 ことばたんてい〇〇 学習材「うれしいことば」(光村図書2年上)	町田市立忠生第三小学校 主任教諭 三原 愛子	都小国研 顧問 今村久二 先生
	4	3	単元名 高輪台小ネーミングプロジェクト 学習材「言葉のたから箱」(光村図書4年上)	豊島区立豊成小学校 主任教諭 松波 智恵	
	5	1	単元名 同訓異字語で遊ぼう 学習材「同じ読み方の漢字」(光村図書5年)	港区立高輪台小学校 主幹教諭 須田美和子	
	5	2	単元名 同訓異字語で遊ぼう 学習材「同じ読み方の漢字」(光村図書5年)	武蔵野市立千川小学校 主任教諭 佐々木恵理	

#### 5 全体会

- |          |                 |      |         |
|----------|-----------------|------|---------|
| (1) 挨拶   | 東京都小学校国語教育研究会   | 会 長  | 篠原 敦子   |
| (2) 祝 辞  | 東京都教職員研修センター企画部 | 企画課長 | 藪田 憲正 様 |
|          | 港区教育委員会         | 教育 長 | 青木 康平 様 |
| (3) 来賓紹介 | 日本国語教育学会        | 会 長  | 田近 洵一 様 |
|          | 全国小学校国語教育研究会    | 会 長  | 小野江 隆 様 |

#### 6 講演

演題 「育成すべき資質・能力を明確にした単元づくり」

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 菊池 英慈 先生



# 研究主題について

## 未来を拓く国語教育の創造

— 主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり —

研究担当副会長 河村 祐好

### 1 研究主題の設定について

東京都小学校国語教育研究会では、平成15年度から平成26年度まで「言葉の学び手が育つ国語教育の創造」を研究主題と設定し、常に時代の要請に応じた先進的な国語教育の研究に努めてきた。

平成26年11月に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（諮問）が出されたことを受け、平成27年度より、研究主題を「未来を拓く国語教育の創造」とし、研究に取り組んでいる。「未来を拓く」とは、国語科において児童が主体的・協働的な言語活動を通し、豊かな言葉の力を育て、さらに他教科の学習や日常生活に生かしていく豊かな言語生活者としての言葉の力を育てることである。つまり、「言葉の学び手が育つ」これまでの研究成果を踏まえ、「言葉を学び、その力を活用する児童が育つ」ことを意味している。

さらに、平成29年3月に告示された新学習指導要領の基本方針を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していくためには、本会が研究の核に据え取り組んできた「単元づくり」を一層進めていくことが必要と考えた。そこで、引き続き研究主題を「未来を拓く国語教育の創造」とし、研究副主題を「主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり」として、平成29年度・30年度の2年間を継続して研究を進めることとした。今年度は、その2年目にあたる。

今回の学習指導要領の改定で目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理された。平成30年度は、移行期間であることを踏まえつつ、新学習指導要領に則り、「知識技能の確実な習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学びに向かう力や人間性等の涵養」を偏りなく実現していくことが重要となり、国語科においても、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、次のような視点で授業改善を行うこととした。

#### ◆「主体的な学び」の視点

学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習を設定するなど、子供自身が主体的に取り組める学習課程、実社会や実生活とのかかわりを重視した学習課題を設定するなど、学ぶ意欲が高まる学習を工夫する。

自分の学びの変容を自覚し、説明したり評価したりできるようになることが重要である。

#### ◆「対話的な学び」の視点

子供同士、子供と教職員・地域の人と論議したり協議したりすることや、本の作者の考えを自分の考えに生かすことなどを通して、互いの知見や考えを広げ深める言語活動を設定することが重要である。子供同士、子供と教職員や地域の人々などが互いの知見を伝え合ったり論議したり協議したりすることや、書物等先哲の考え方を手掛かりに考えたことなどを通じて、自己の考えを

広げ深める場面を学習の中に位置付ける。

#### ◆「深い学び」の視点

「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設ける。その際、自分の思考をたどり、独創的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面から問い直し、考えを深めることが重要であると共に、語彙の豊かさが求められる。

## 2 研究主題に迫る観点

研究2年目の今年度は、移行期間であることを踏まえつつ、新学習指導要領に則り、研究を進める。研究を進めるにあたっては、次の観点について、各部の領域の特性に応じて具体的に内容を設定し、研究を深めていく。

### (1) 単元づくりの工夫と柔軟な学習課程

- 他教科及び多様なカリキュラムと関連した単元構成
- 実生活に根ざした題材の単元づくり
- 児童の実態を多面的な視点から分析的に把握し、児童主体の単元づくり
- 豊かな語彙の獲得を目指す単元づくり
- 児童の実態と単元で身につけさせたい力を明確にした学習課程
- 適切な言語活動を設定した学習課程

### (2) 児童の学びの向上につながる評価と指導

- 個の学習状況に応じた評価
- 自分の学びの変容を自覚できる振り返りの工夫

## 3 研究に関わる事業計画

### (1) 研究大会事業

- ① 都小国研総会・講演会・研究委員総会 平成30年5月10日(木) 葛飾区立清和小学校
- ② 都小国研多摩地区研究会 総会・研究大会 平成30年5月31日(木) 東村山市立八坂小学校
- ③ 第29回都小国研研究大会 平成31年2月22日(金) 港区立高輪台小学校

### (2) 研究調査事業

- ① 都小国研まなび塾（本年度12年目） 平成30年7月21日(土) 墨田区立両国小学校  
多摩まなび塾（本年度9年目） 平成30年11月3日(土) 東村山市立東萩山小学校
- ② 研究各部の定例研究会（「大会」に対して「小研」という）を実施する。
- ③ 研究部各部の研究活動
- ④ 地域の研究活動への協力

### (3) 研究成果刊行事業

- ① 機関誌の発行「国語教育」第213号、第214号
- ② 研究紀要の発行 第40号（平成31年2月22日 第29回研究大会研究紀要）

# 主体的に話し合い、 自己充実を目指す児童を育成する単元づくり

話すこと・聞くこと部長 加賀田 真理

## 1 研究主題

### (1) 研究主題の設定について

今年度は、昨年度の研究を進めるとともに、新学習指導要領の目標にある「伝え合う力を高める」こと、すなわち、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めること」を踏まえ研究することとした。皆が納得する考えを作り出したり新たな考えを生み出したりする合意形成の話し合いを目指し、研究主題を「主体的に話し合い、自己充実を目指す児童を育成する単元づくり」とした。

一人一人の児童が主体的な言葉の使い手として、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力を身に付けさせる。そのために、児童の実生活に根ざした題材によって単元を作り、よりよいものへと高め合う相互作用としての「話し合う力」を育成する。そして話し合いによって、自分の考えが変化したり、新たな考えを見出したり、話し合い方を身に付けたりすることによって、自己充実を目指すことができると考える。

また、本会の研究副主題である「主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり」を、本研究部では、次のような児童の姿を目指すことと捉え、単元づくりに取り組んだ。

主体的な学び：実社会や実生活との関わりを重視した学習課題を設定し、児童が自分の話し合いでの課題を把握し、学びに向かおうとする姿

対話的な学び：相手の考えを尊重し、互いの知見や考えを広げ深めていこうとする姿

深い学び：児童が自分の思考をたどり、問い直し考えを深めようとする姿

### (2) 研究主題に迫る観点

- 児童の主体性を喚起させる実生活に根ざした話題、学習課題、学習過程、学習活動の設定。
- どの学校でも取り入れられる、明日からやってみたいと思えるシンプルな話材の選定。
- 児童の実態の分析と単元で身に付けさせたい力の設定と学習過程の工夫・構造化。
- 児童が自らの学習状況を正しく把握し、身に付けたい力を意識する自己評価や、自分の学びや変容を見取り、自分の学びを自覚する学習の振り返りの工夫。

## 2 研究内容

### (1) 身に付けさせたい力の明確化

- ・発達段階に合わせた重点：つなぐ（低学年）・まとめる（中学年）・つくる（高学年）
- ・模擬対話やシナリオなど話し合いの例を提示して、話し合い方や使いたい言葉を意識させる。

### (2) 単元づくりの工夫と柔軟な学習過程

- ・相手意識・目的意識が明確な話題にするため、児童の生活に根ざした終末の活動を設定。
- ・話し合いの形態の工夫：対話をするペアとアドバイスをするペアの組み合わせ（低）、中規模



- グループで役割に応じた話し合い（中）、目的に合わせたグループでの話し合い（高）
- ・段階を追った指導：考えの共有→整理→選んだりまとめたり作ったりする話し合い方

### (3) 児童の学びの向上につながる評価と指導

- ・身に付けたい力に即して、話し方、考え方、展開の仕方などのポイントを示し、児童が自ら課題解決の方法をとらえることができるようにする。
- ・話し合いでの自己の課題を把握する。話し合い方の例などを通して良い話し合い方を見付け、自分が身に付けたいことを意識して話し合いをする。そして、話し合いの後振り返るという学習過程の構造化を図る。
- ・グループの話し合いでうまくいったことをポイントをもとに振り返り、有用性を意識する。

## 3 研究経過

- 9月20日 新宿区立西新宿小学校 主任教諭 早坂佳乃 講師 都小国研顧問 邑上裕子先生  
第2学年「1年生におすすめの本をしょうかいしよう」
- 10月11日 江戸川区立第二葛西小学校 主幹教諭 齋藤美津子 講師 都小国研顧問 邑上裕子先生  
第4学年「給食調理員さん・栄養士さんにお礼の気持ちを伝えよう」
- 10月16日 新宿区立花園小学校 主幹教諭 朽木良美 講師 都小国研顧問 邑上裕子先生  
第6学年「より良い公園づくりについて考えよう」

## 4 実践報告

### (1) 低学年実践報告 第2学年実践

- ① 分科会重点 興味をもって、話題に沿って話をつなぐ。
- ② 単元名 「1年生におすすめの本をしょうかいしよう  
—相手の話を受け止めて、つないで決めよう—」
- ③ 単元の目標
  - 互いの考えのよさを見付けながら、対話することができる。
  - 自分が選んだ本の薦めたい理由をはっきりさせて話すことができる。
  - 相手意識、目的意識をもって、話題に沿って話し合うことができる。
- ④ 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手に伝わりやすい声の大きさや速さで話している。</li> <li>○図書支援員の方の話を聞き、様々な発表があることを知る。</li> <li>○自分の思いや考えについて、わけを入れて話している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手意識、目的意識をもって本を選んでいる。</li> <li>○相手の考えを確かめながら話し合っている。</li> <li>○互いの選んだ本のいいところを見付けながら、目的を意識して紹介する本を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習に興味をもち、単元のめあてをつかもうとしている。</li> <li>○自分にどんな力が身に付いたか具体的に振り返る。</li> </ul>

## ⑤ 単元構成

### ア 児童について（児童観）

ペアでの話合いで、片方の意見で進んでしまったり、短いやり取りで終わってしまったり、長すぎて話がそれてしまったりする場面が見られる。こうした実態を踏まえ、興味をもって話を聞き、話題に沿って話をつなぐ力を身に付けさせたいと考えた。

### イ 話題について（学習材観）

1年生の中には、自分で本を読むことを苦手と思う児童もいる。そこで、学習材を「自分のおすすめの本を紹介すること」とし、1年生が本を好きになることを目指した。

### ウ 単元について（単元観）

ペアを2つ組み合わせて進める。2人は選んできた2冊を合わせて4冊の中から、1年生にお薦めする1冊を選ぶ。もう2人は話合いの様子を見ながら、アドバイスをする。

## ⑥ 研究主題に迫るために

### ア 単元づくりの工夫と柔軟な学習過程

- ・1年生の先生から「お薦めの本を紹介してほしい」と依頼を受けることで、相手意識、目的意識を明確にし、学習意欲を高められるようにした。
- ・薦める本を決める2人とアドバイスをする2人に分かれる。アドバイスは「話合いが止まった」「内容がずれた」「順番に話していない」「決まらない」場面とした。

### イ 児童の学びの向上につながる評価と指導

- ・どのようにすれば1年生に本を好きになってもらえるかを全体で話し合う。また、この学習で身に付けたい力を考え、児童が自身の課題を意識して取り組めるようにする。
- ・話合いの例による模擬対話を行う。薦める本を決める中で、話し手は理由により意見が明確になり、聞き手も相手の意見により感想が深まるというよさに気付かせたい。

## ⑦ 単元計画

過程(次)	時	学 習 活 動	指 導 事 項	評価規準 評価方法★
1	1	○ 1年生にお薦めの本を紹介することを知る。	・相手意識、目的意識、ゴールイメージをもたせること。	◆自分の経験から、1年生に本を好きになってもらえるような本を選んでいる。  ★授業の様子・選んだ本 ◆相手が伝えたいことを聞き取って質問したり、感想を伝えたりして話し合っている。
2	2	○ 模擬対話(話合いの例)を見て話合いの仕方を学ぶ。	・今までの経験からよい話合いの方法を考えること。	
	3	○ 1年生に紹介したい本を2冊選ぶ。		
	4	○ ペアで話し合い、薦める本を1冊決める。	・理由を明確にして相手に伝えること。	
3	5	○ 本を紹介する方法を話し合う。	・一番伝えたいことを明確にすること。	
	6			
	7	○ 1年生に本を紹介する。		

## ⑧ 本時の学習（4／7時間）

ア 本時のねらい・・・相手意識、目的意識をもって、話題に沿って話し合う。

イ 本時の展開

学 習 活 動	指 導 事 項	◆評価 ★評価方法 ○指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のめあてを確認する。</li> <li>・ 上手な話し合い方、応援係の役割を確認する。</li> <li>・ 話し合いをする</li> <li>・ アドバイスを発表する。</li> <li>・ 立場を変えて話し合いをする。</li> <li>・ 振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理由を明確にして伝えること。</li> <li>・ 話をつなぐ言葉を考えること。</li> <li>・ 理由を明らかにすることで意見や感想が明確になること。</li> <li>・ アドバイスでよりよい話し合いにしていこうとすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生に「この本を読んでみたい」と思わせる目的を確認する。</li> <li>◆ 相手が伝えたいことを聞き取って質問したり、感想を伝えたりして話し合っている。(★授業の様子・振り返り)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>概ね満足できる児童への手立て</u> 1年生に対する立場を意識しながら理由を話すようにする。</li> <li>○ <u>概ね満足できる状況を目指す児童への手立て</u> アドバイスをもとにしたり、共感が多いものに決めようと声をかけたりする。</li> </ul> </div>

### ⑨ 指導・助言 (講師 邑上 裕子 先生)

- 伝えて、聞いて、じっくり決めるという流れを意識して、焦らずに対話していた。全体の振り返りでの意識付けは十分であったか検討したい。
- 対話に対する2人のアドバイス係(観察者)という設定は提案性がある。個々のやりとりは「つなげる」ことになっているか検討したい。

### (2) 中学年実践報告 第4学年実践

- ① 分科会重点 目的や条件を意識して、意見を比べながら話し合ってまとめる。
- ② 単元名 「給食調理員さん・栄養士さんにお礼の気持ちを伝えよう」  
—司会者や参加者の役割を意識してすすんで話し合おう—

#### ③ 単元の目標

それぞれの役割を意識しながら互いの意見の共通点や相違点を整理し、目的や条件に照らしながら意見をまとめることができる。

#### ④ 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
○ 話したり聞いたりするために必要な語句を増やそうとしている。	○ 役割を果たしながら、共通点や相違点を整理し、目的や条件を意識して意見をまとめている。	○ 話題に関心をもって話し合いに臨もうとしている。

### ⑤ 単元構成

#### ア 児童について (児童観)

4年生の児童は、自分の考えをもち、その考えを理由とともに伝えることができるようになってきているが、話をまとめることが十分にできているとは言えない。目的を意識して互いの意見を比べ、まとめていく話し合いの力を育むことが必要であると考えた。

#### イ 話題について (学習材観)

「給食調理員さん・栄養士さんにお礼の気持ちを伝える」ことを目的とし、その気持ちを歌にして伝える活動を設定した。「どのような歌詞にしたらお礼の気持ちが伝わるか」を話

題として話し合い、出来上がった歌を直接贈ることで、「自己充実」にもつなげる。

#### ウ 単元について（単元観）

歌詞にする過程で、意見を整理してまとめる必然性が生まれてくる。自分の考えと理由をはっきりさせた上で、共通点や相違点を基に整理する。それをまとめる際に、目的や条件に照らして言葉を選んだり、新たな歌詞を考えたりしていく。

### ⑥ 研究主題に迫るために

#### ア 単元づくりの工夫と柔軟な学習過程

- 発言の機会を確保し、どの児童も主体的に話し合いに関われるよう、中規模グループ（12～13人）での話し合いを繰り返し設定する。
- 役割を理解し、目的や条件に照らして意見をまとめていく話し合いができるよう、同じ話題による話し合いを、段階を追って行う。

#### イ 児童の学びの向上につながる評価と指導

- 司会者・参加者の役割を明確に設定し、児童に分かる言葉で示したり掲示したりする。
- 考えを可視化するために「ピラミッドチャート」を板書に活用する。
- 育てたい力につながる思考の仕方や使わせたい言葉を「シナリオ」として提示し、繰り返しロールプレイする中で身に付けさせ、話し合い場面で活用できるようにする。
- 言葉を選んだり、新たな歌詞を考えたりする際の「まとめる方法の例」を示す。

### ⑦ 単元計画

過程(次)	時	学 習 活 動	指 導 事 項	評価規準 評価方法★
1	1	○「お礼の歌」を作り、贈ることを知る。	・話題に関心をもつこと。	◆シナリオをもとに役割や進行の仕方を知る。 ★発言、学習シート  ◆動画や音声を振り返り役割や進行の仕方を理解している。 ★発言、学習シート  ◆シナリオやまとめ方の例をふまえて歌詞を選んだり、つくったりしている。 ★発言、学習シート
	2	○話し合い方の課題をもつ。 ○司会者や参加者の役割と話し合いの流れを知る。	・役割や進行の仕方を知ること。	
	3	○「お礼の歌」の歌詞に入れたいことを考える。	・役割や進行の仕方を理解すること。	
	4	○歌詞に入れたいことを出し合う。		
	5	○歌詞に入れたいことを整理する。	・共通点や相違点を考えながら話し合うこと。	
	6	○歌詞に入れたいことを選んだり、つくったりする。	・目的や条件に照らし話し合うこと。	
	7	○歌詞を決める。		

### ⑧ 本時の学習（6／7時間）

#### ア 本時のねらい

司会者や参加者などの役割を意識し、話し合いの目的や条件に照らして進行に沿って話し合うことができる。

#### イ 本時の展開



学 習 活 動	指 導 事 項	◆評価 ★評価方法 ○指導上の留意点
○共通点・相違点の整理の仕方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             言葉を選んだり、新しい歌詞をつくったりしよう。           </div> ○「話し合いのシナリオ」を使いロールプレイを行う。 ○「話し合いのシナリオ」で気付いたことを書き込み、交流して確認する。 ○「お礼の歌」に入れたことを選んだり新たにつくったりする話し合いを行う。  ○話し合いを振り返る。	・役割に応じ、まとめるために、目的や条件に照らしながら話し合いを進めること。	○共通点・相違点を意識して話し合いをしたことを価値付ける。  ○意見のまとめ方をシナリオで示しながら考えさせる。 ○いくつかの意見をまとめる方法を示す。  ◆司会者や参加者などの役割を果たしながら、意見をまとめるために、話し合いの目的や条件に照らして、話し合いを進めている。 (★ 発言、学習シート) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ○ 概ね満足できる児童への手立て              目的や条件に照らした発言をするよう助言する。              ○ 概ね満足できる状況を目指す児童への手立て              掲示や板書を示し、目的や条件に立ち戻って話し合うように助言する。           </div>

⑨ 指導・助言 (講師 邑上 裕子 先生)

- 共感できる児童が多いが前の意見をすぐ肯定せずに、そこから関係付けた発言をさせたい。
- ピラミッドチャート・シナリオ台本の内容を精査する必要がある。

(3) 高学年実践報告 第6学年実践

① 分科会重点 互いの考えを尊重し合いながら話し合い、考えを広げたり深めたりする。

② 単元名 「より良い公園づくりについて考えよう」

—それぞれの立場から関係付けて話し合い、考えをまとめよう—

③ 単元の目標

それぞれの立場から関係付けて検討し、より良い公園づくりについて考えを広げたり、まとめたりすることができる。

④ 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
○ 様々な人の立場や願いと公園の役割との関係付けの仕方を理解して使っている。	○ 様々な人の立場や願いと公園の役割を関係付けて話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。	○ 話し合い方や公園の改善点を話し合うという話題について関心をもとうとしている。

⑤ 単元構成

ア 児童について (児童観)

児童は目的や条件を意識して意見を比べて話し合う力が付いているので、互いの考えを尊重しながら話し合い、考えを広げたりまとめたりできる力を育むことが必要だと考えた。

イ 話題について (学習材観)

児童は、社会科「わたしたちの生活と政治」について学習しており、国や地方公共団体の

働きに関心をもっているので、誰もが利用経験のある公園について改善点を考えるという話題を設定した。公園の改善点を区役所に提案し、「自己充実」につなげる。

### ウ 単元について（単元観）

児童が身近に利用している公園について、様々な立場の人が利用し、「防災」「自然」「遊び」「憩い」「運動」「集い」（以下、「公園の役割」とする）という施設の役割があることに児童は気づき、公園に対して関心を高めていく。

## ⑥ 研究主題に迫るために

### ア 単元づくりの工夫と柔軟な学習過程

- 「より良い公園づくりを考える」という話題に着目し、情報を広げ、まとめるためのより良い話し合い方について工夫する学習活動を設定する。
- 社会科「生活と政治」と国語科「それぞれの立場から関係付けて話し合い、考えをまとめる」という教科横断的な学習を図っている。

### イ 児童の学びの向上につながる評価と指導

- 児童は、公園の図面を見ながら公園の役割を理解し、集めた情報を整理し、改善点について自分の考えをもつ。
- 「たくさんの人の立場や願い」と「公園の役割」を満たすという基準に立ち返らせ、地域の公園に必要な改善点を選んでいくようにする。
- 本時の導入時にポイントに沿って改善点を述べている話し合いの例を提示し、自分たちの課題を解決できる話し合い方について確認をする。

## ⑦ 単元計画

過程(次)	時	学 習 活 動	指 導 事 項	評価規準 評価方法★
1	1	○ 話し合い方の課題をもつ。 ○ 公園のよいところや改善したいところを出し合う。	・学習の目的を知り、関心をもつこと。	◆公園の改善点を考えるための材料を集めている。 ★観察、学習シート ◆公園にある施設を分類している。 ★観察、学習シート  ◆いろいろな人の立場から検討している。 ★観察、学習シート
	2	○ 区役所の方の話を動画で視聴する。 ○ 実際に公園に行き、公園について情報を収集する。	・目的に応じて、今ある公園の状況など改善点を考えるための材料を集めること。	
	3	○ グループで収集した情報を観点別に分類・整理する。	・観点に基づいて情報を分類し整理すること。	
	4	○ 公園の改善したいところをグループで話し合う。		
	5	○ グループで話し合った内容を学級で共有し、学習の振り返りを行う。	・公園の改善点について考えをまとめたり、広げたりすること。	
	課外	○ 区役所の方にグループで考えた各公園の改善案を提案する。		

## ⑧ 本時の学習（4 / 5時間）

### ア 本時のねらい

公園を利用する様々な人の立場や願い、公園の役割を関係付けながら理由を述べて改善点

を話し合うことができる。

### イ 本時の展開

学 習 活 動	指 導 事 項	◆評価 ★評価方法 ○指導上の留意点
○話し合いの進め方やポイントを確認する。		○話し合いの例を教師が提示することで、話し合いのポイントを考えられるようにする。
<b>グループで公園の改善点を話し合い、まとめよう。</b>		
○グループごとに話し合いのポイントを意識しながら話し合う。 ○話し合いのポイントを踏まえて話し合っているか、途中グループで動画を見て振り返る。 ○振り返りをもとに話し合いを再開する。 ○学習の振り返りを行う。	・公園を利用する様々な人の立場や願い、公園の役割を関係付けながら理由を述べて話し合うこと。	◆公園を利用する様々な人の立場や願い、公園の役割を関係付けながら理由を述べて改善点を話し合っている。 (★観察、学習カード) ○ <u>概ね満足できる児童への手だて</u> 様々な人の立場や願い、公園の役割を関連付けながら発言をまとめたり、自分の考えに生かしたりできるように助言する。 ○ <u>概ね満足できる状況を目指す児童への手だて</u> 掲示物を示したり、様々な人の立場や願い、公園の役割を具体的に考えたりするよう助言する。 ○「話し合い方について」「話し合った内容について」の両方から振り返りを行い、学習シートに書く。

#### ⑨ 指導・助言 (講師 邑上 裕子 先生)

- 話し合いのポイントの指導を前時までに行い、本時で価値付ける方が適切である。
- 動画による振り返りは、「話し合い方」により着目できるように改善を図る必要がある。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- 実生活に根ざした話題と終末の活動を設定したことによって、児童は主体的に学習に取り組んだ。さらに、相手意識・目的意識をはっきりもって話し合うことができた。
- 模擬対話やシナリオなど話し合いの例を提示することによって、目的や役割にあった考え方をしている児童の姿が見られた。また、提示された話し合い方に基づいて、付けたい力や良い話し合い方を意識して話し合うことができていた。
- 付けたい力や目的に合わせてグループの人数や形態を工夫したことによって、児童一人一人が話しやすくなり、話が進んだり、緊張感のある話し合いになったりするなど、参加者が協力して進めようとする意欲の高まりが見られた。

### (2) 課題

- 話し合いで考えを収束していくときに、児童それぞれが共通した目標やコンセプトを意識できるようにし、考えを深めるようにすること。
- 話し合いの例は、短く、分かりやすい内容にしていくこと。
- 児童自身が身に付けたいことを確認して話し合いに臨んだり、話し合いの流れを確認したりできるように工夫すること。

# 児童の深い学びを目指す、 主体的・対話的な書くことの単元づくり

書くこと部長 風 澤 明 子

## 1 研究主題について

### (1) 研究主題について

書くこと部では、「主体的・対話的で深い学び」については、以下のように捉えている。

「主体的」とは、児童自らが「書いて伝えたい」、「書いて表したい」という思いをもちながら、書くことに取り組む姿であり、文章で表現する活動を通して得られる気付きや楽しさ、経験を生かそうとする姿である。「対話的」とは、児童が書くことの目的や相手のことを思いながら書く姿や、書くことの題材を通して題材そのものや書き手である自分自身と向き合う姿、書く過程において、書く前、書いている最中、書いた後に、書きたいことについて友達と語り合う姿である。「深い学び」は、主体的、対話的な書くことの活動を通して、自分の書く力の成長を振り返ったり、ものの見方や考え方が深まったりする姿である。

書くこと部では、これまでも児童が主体的に書く活動に取り組めるような単元の開発や、書くことに抵抗を感じたり苦手意識があったりする児童を、進んで書けるようにするために個々の書く力に合わせた柔軟な学習過程での指導を推進してきた。さらには、自分が書いたものが他の人に読まれて評価される喜びや自分自身の達成感など、実感を伴った単元づくりにも力を入れてきた。これらを継続するとともに、今年度は研究を焦点化し、発展することを目指した。

### (2) 系統性を意識した書くことの指導

#### ① 構成から記述への指導

昨年度の課題として、構成から記述という段階でつまづく児童が多いということが挙がった。この反省をもとにして、今年度は構成から記述への学習過程を柔軟に考え、自分の書きたいことを表現できるような手立てをとることとした。

#### ② 文学的文章を書く活動を通じた指導

目の前の児童の話題や生活経験等に着眼して単元づくりを行ってきた成果として、児童が「書きたい」と意欲をもった単元づくりができるようになってきた。一方で、学年の発達に伴う技能の活用や発達の段階に応じた単元づくりの視点が十分でなかった。今年度は、文学的文章を書く活動に絞り、その中で、より児童が意欲的に取り組むことができる単元づくりを目指すことにした。



## 2 研究内容

(1) 単元づくりの工夫	(2) 児童の学びの向上につながる指導と評価
① 0 次の学習 ② 柔軟な学習過程 ③ 実の場の活用	① 学習計画表と振り返りの活用 ② 個に応じた指導・支援（教師の指導・支援）

## 3 研究経過

- ◆10月11日(木) 6 学年 中野区立南台小学校（授業者）薄 美歩 教諭  
（単元名）「その時、歴史が動いた」～自叙伝を書こう～
- ◆11月21日(水) 3 学年 練馬区立光が丘春の風小学校（授業者）笹木 望美 主任教諭  
（単元名）「ファンタジーのとびらを開こう」～物語を書こう～
- ◆12月 3 日(月) 2 学年 北区立稲田小学校（授業者）清水 絵里 主任教諭  
（単元名）「2 年 1 組お話ワールドへようこそ」～絵から想像して物語を書く～
- ◆12月13日(木) 1 学年 港区立赤羽小学校（授業者）清浦 夕樹 教諭  
（単元名）「赤羽小お話ランドへようこそ」～絵から想像して物語を書く～  
[年間講師] 日本国語教育学会 理事 成家 亘宏 先生

## 4 実践報告

### (1) 低学年分科会（2 年生）

- ① 単元名 「2 年 1 組お話ワールドへようこそ」 —絵から想像して物語を書く—
- ② 単元の目標

○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、文章を書く。

### ③ 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	ウ かぎ「 」の付き方を理解して文や文章の中で使っている。 カ 文の中における主語と述語の関係に気付き、使っている。	イ 自分で考えた物語が明確に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、文章を書いている。	自分で考えた物語を相手に伝えたいという思いや願いをもって、文章を書こうとしている。

### ④ 単元構想

#### ア 児童について（児童観）

1 年生での学習経験や身に付けた力が、2 年生の学習にもつながり、国語科の学習活動においても身に付けた力を発揮している姿が見られる。例えば、ミニトマトの観察文や1学期楽しかったことを書く学習では、時間的な順序や事柄の順序をよく考えて書き、先生や友達に伝えることができた。この学習を通して、伝えたいことを書くためには、始め・中・終わりという構成で書くということも学んだ。さらに、中①・中②と分け、伝えたいことを明確

にするような工夫をしたり、順序を表す言葉を使ったりして、読み手を意識した文章を書くことができるようになってきている。また、この単元の前に、教科書の学習で3枚の絵から物語を考えて書く学習をしてきている。

#### イ 学習材について（学習材観）

低学年の段階で、物語を書くという学習を通して、物事を整理し順序よく書く力を育て、話の構成を意識した文章を書かせたい。本単元では、数枚の絵カードから4枚選び、絵の順番を考えてから、物語文を書く。「書くこと」の構成や順序に目を向けた学習に取り組むことは、「読むこと」における物語文の文章の構成を意識することや、「話すこと・聞くこと」における順序よく話したり聞いたりする活動につながると考える。

#### ウ 単元について（単元観）

本単元では、4枚の絵から物語を考えて文章を書く。さらに、書いたものを1年生に読んでもらい、最後に一冊にまとめて学級文庫に置く。自分の伝えたい事柄を書いて伝えるためには、順序を表す言葉や接続表現を適切に使うこと、会話を入れた文章を書くことに留意して学習に取り組ませる必要がある。

### ⑤ 研究主題に迫るために

#### ア 単元づくりの工夫と柔軟な学習過程

- 0次の設定：本単元は「物語を書くこと」が主な学習活動である。アニメーションを取り入れ絵から物語の展開を予想したり、物語の展開に応じて絵を並べ替えたりする活動を通して、物語の展開と絵の順番について考えるきっかけとした。
- 柔軟な学習過程：第2学年という発達の段階を考慮し「取材」と「構成」を一体化させた学習シートを活用した。
- 実の場における作品の活用：一人一人の物語を一冊の本にまとめるとともに、1年生に読んでもらうようにした。

#### イ 児童の学びの向上につながる評価と指導

- 学習計画表と振り返りの活用：児童が単元全体の見通しをもちながら学習に臨むことができるように学習計画表と振り返りが一体化されている表を活用した。
- 個に応じた指導・支援（教師の指導・支援）：座席表を活用前時までの児童の実態と本時の支援を明確にした。なお、書くことに課題のある児童に対しては、絵カードの例を教師が示したり、ペープサートや個別の対話を通して思いを引き出したりした。

### ⑥ 単元計画（全7時間）

- |     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 0次  | 絵からストーリーを想像する。                   |
| 第一次 | （1時間）絵カードを提示する。学習計画を立てる。         |
| 第二次 | （5時間）絵カードを4枚選び、絵から想像した物語を書く。     |
| 第三次 | （1時間）物語を読み合い、よいところ・工夫したところを伝え合う。 |
| 実の場 | （活用）1年生に読み聞かせをする。一冊にまとめて学級文庫に置く。 |

#### ⑦ 指導の実際

- |    |                                          |
|----|------------------------------------------|
| 0次 | 「読むこと」における物語文の学習において、読書アニメーションを取り入れ、絵からス |
|----|------------------------------------------|

トーリーを想像するように助言した。

**第一次** 1時間目は、絵カードを提示し想像できることを考え、個からペアそして全体で共有した。

**第二次** 2・3時間目は、4枚のカードを選んだ。物語の設定を考えた後、カードの順番を決め、誰が何をしているのかを書いた。4時間目は、付箋に登場人物の行動・会話・気持ちを書いた。5・6時間目は、前時に書いた付箋メモを参考にしながら物語を記述した。また、書き終えた文章を読み返し、推敲を行った。

**第三次** 7時間目は出来上がった物語を友達と読み合い、感想を伝え合う活動を行った。

**実の場** 朝読書の時間に1年生の教室へ行き、1年生とペアになって読み聞かせをした。その後一冊にまとめ、学級文庫に置いた。

⑧ 指導・講評 講師 都小国研顧問 成家 亘宏先生

- 低学年にとっての「物語」を書くということは、自分なりの想像の世界を作り、物語の世界に浸ることができるようになる。
- 一人一人の読書生活の延長上に「書くこと」の学習があり、また「書いたこと」が、それ以後の読書生活の充実・向上につながるように生かされるとよい。
- 一人一人の「発想力」「構想力」「着想力」の基礎を培う。文章を書くための「想」の掘り起こしが重要である。

(2) 中学年分科会 (3年生)

① 単元名 「ファンタジーのとびらを開こう」 ～物語を書こう～

② 単元の目標

- 1枚の絵から想像を広げ、物語文を進んで書く。
- 語と語や文と文の続き方に注意し、物語文を書く。
- 物語文を書く上で、必要な表現の仕方を理解し、使う。

③ 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評価 規準	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語や文の中で使うとともに、語彙を豊かにしようとしている。	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。	扉の絵から想像を広げ、自分なりの物語文を書いて伝えようとしている。

④ 単元構想

ア 児童について (児童観)

児童は、低学年で「始め・中・終わり」の構成を意識して文章を書いている。物語文を書く学習では、場面ごとの絵を見ながら物語を書く学習を行っている。本単元では、低学年で学習したことを基に、1枚の扉の絵から想像を広げ、伝えたいことを明確にした文章を書く

力を付けさせたいと考えた。

#### イ 学習材について（学習材観）

本単元では、1枚の扉絵を開けた後の世界を想像し、そこから想像を広げ物語を書く。その際に、物語の扉を開いて読み進めることができるようにした。そのため、単元名を「ファンタジーのとびらを開こう」と設定した。

本単元で書かせたい物語文は、「始め・中・終わり」の文章構成とし、全体で1000字程度の文章にする。始めには、登場人物の紹介と扉を開けて目にした世界を書く。中①では、物語の中で何かしらの出来事が起こり、中②では、その出来事が一変する出来事を書く。終わりでは、最初の扉の前に戻ってくることを書く。構想の手助けとして図鑑を用いながらイメージを膨らませていくようにする。「始め・中・終わり」の物語のつながりを考えながら書くことで、語と語や文と文のつながりを意識して物語を書く力を育成したい。

#### ウ 単元について（単元観）

3年生は、想像力が豊かで、ファンタジーや冒険物語も好んで読むようになるため、想像力を膨らませて物語を書くことは適当であると考え。単元のはじめに、学習の目的や読み手について話し合っただけで学習への意欲を高めるとともに、学習の見通しをもたせる。実の場の活用として、他校の小学校の児童にも読んでもらい、物語を想像する楽しさや思いを発信させたい。

### ⑤ 研究主題に迫るために

#### ア 単元づくりの工夫

- 0次の設定：「学級文庫に物語や図鑑を置くこと」「読み聞かせをし、物語のおもしろさに触れさせること」「他校の児童が作った物語文を提示すること」を設定する。
- 柔軟な学習過程：構成や記述の際に、取材（図鑑の活用）に立ち返ったり、友達と交流して、自分の考えを広げたり、整理したりする。
- 実の場における作品の活用：0次で紹介した他校の同学年の児童に物語文を読んでもらい、感想を交流する。
- 交流の場の設定：学習過程の中で、適宜交流の場を設定する。友達と文章を読み合うことで、友達の思いや書きぶりを知ったり、自分の作品を振り返り良さを見付けたりする。

#### イ 児童の学びの向上につながる指導と評価

- 学習計画表と振り返りの活用：学習計画表に沿って、児童は毎時間振り返りをし、自己内対話をする時間を保証する。教師が児童の振り返りを評価し、価値付けをすることで、次時の学習に向かう姿勢を励ましたり修正したりする。
- 個に応じた指導・支援（教師の指導・支援）：振り返りやワークシート等を基に児童の学習状況を把握して、座席型支援表を作成し指導をする。

### ⑥ 単元計画（全7時間）

- |     |                                         |
|-----|-----------------------------------------|
| 0次  | 物語の本や図鑑、他校の児童が作った物語文を読む。                |
| 第一次 | （1時間）物語を書いて他校の児童と交流することを知り、物語を書く計画を立てる。 |
| 第二次 | （5時間）物語の入り口になる「とびら」の向こうにある世界を決め、図鑑などを活用 |



して物語の設定（取材）を考える。文章構成を理解し、取材カードを基に文章を書く。

**第三次**（1時間）友達と作品を読み合い、よいところを見付け、感想を伝え合う。

#### ⑦ 指導の実際

**0次** 教師が物語の本や絵本を読み聞かせたり、学級文庫に物語文や図鑑を置きいつでも読むことができる環境を作ったりした。他校の児童が作った物語文を紹介した。

**第一次** 0次で他校の児童の物語文を紹介した際の「物語を書きたい」「物語を送って読んでもらいたい」という児童の発言を基に、物語を書いて交流する学習をすることを確認した。その上で、児童と一緒に学習計画を立て、今後の見通しをもった。また、文例を読み、「始め・中・終わり」の構成を理解した。他校の児童の物語や文例等からよい表現や使ってみたい言葉を見付け、「ことばの宝箱」を作成した。「ことばの宝箱」の言葉は、児童が思いついたときに自由に増やし、いつでも活用できるようにした。

**第二次** 2時間は、「とびら」の向こうにあるファンタジーの世界を決め、主人公や他の登場人物、アイテム等、物語の簡単な設定を図鑑を活用して考えた。3時間目は、取材カードの中から、自分の書きたい事柄に合っている材料を選び、「始め・中・終わり」の構成に沿ってメモを書いた。必要に応じて、図鑑や事典を見る等、取材に戻るよう助言した。

4・5時間目は、構成表を基に物語文を書いた。記述の前に、物語のあらすじを友達に伝える活動をした。友達からよいところを褒められたり、アドバイスをもらったりすることで、書こうとしている話が明確になり、自信をもつことができた。記述をしていて迷った際には、「ことばの宝箱」や図鑑、他校の児童の物語等を参考にしている児童もいた。書き終えた児童から、互いに文章を読み合った。

**第三次** 完成した物語をクラスの友達と読み合い、よいところを見付け、感想を伝え合った。

**実の場** 完成した物語を交流している他校の児童に送って読んでもらった。物語を読んだ感想等をメッセージカードに書いて、お互いに交流した。交流をしたことで、児童の次への学習への期待や意欲が高まった。

#### ⑧ 指導・講評 講師 都小国研顧問 成家 巨宏先生

- 現実の世界と（始め・終わり）と非現実の世界（中）を「とびら」で区別したことで、ファンタジーの世界を書きやすくしていた。
- 構成から記述の間に、構想するという学習活動が入る。構成の柱と柱を埋めるための手立ては検討の余地がある。
- 「ことばの宝箱」を参考に記述をしている児童がいた。一つの「ことばの宝箱」にするのではなく、ファンタジーの世界ごとに使いやすい言葉を集めることもできるのではないか。

### (3) 高学年分科会（6年生）

#### ① 単元名 「その時、歴史が動いた」 ～自叙伝を書こう～

## ② 単元の目標

- 書くことを吟味する中で、生き方に対する自分の見方・考え方を見つめ直す。
- 集めた材料をまとめ、関係付けたりすることを通して、伝えたいことが明確な文章を書く。
- 語感・言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもち、語や語句を使って文章を書く。

## ③ 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	オ 思考に関わる語句の量を増やし、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。	自分の経験について伝えたいことを明確にし、読み手に伝わりやすい文章になるように工夫して書こうとしている。

## ④ 単元構想

### ア 児童について（児童観）

自分自身の課題や理想像については、大半の児童が書くことができる。しかし、書くことのよさやその意味については前向きに捉えている児童が少ない。そこで、自叙伝を書くことを通して、自己を振り返り、自分の思いや考えを明確にし、さらに、自分のこれからにつながることに気付かせることで、書くことのよさを感じられるようにした。

### イ 学習材について（学習材観）

今回の自叙伝とは、12年間を振り返り、「自分の成長や何かを乗り越えたとき、学びがあったときの記録」である。出来事に沿って細かな章立てがされているので、著者に影響を与えた出来事や大切にしている事が読み手に伝わりやすいものである。

### ウ 単元について（単元観）

卒業が近づき、自分自身の進路や将来について考え始める時期に、今の自分を作っている原点を振り返り、自叙伝として書くことで自分の生き方を見つめ直すきっかけとしたい。さらには、自分自身の人生は長く続いていくことも視野にいれ、将来への展望となることを期待する。

## ⑤ 研究主題に迫るために

### ア 単元作りの工夫

- 0次の設定：伝記や自叙伝などの読書活動や日記や行事作文での思いの記述の場を設けたり、偉人の作品からその人物の考えを知る機会を設定したりした。
- 柔軟な学習過程：必要に応じて推敲⇔構成、記述⇔構成のように、構成などに立ち返ることができるようにした。
- 実の場における作品の活用：自叙伝集としてまとめ、個人や図書室の伝記スペースに置く。

### イ 児童の学びの向上につながる評価と指導

- 学習計画表と振り返りの活用：児童が単元全体の見通しをもって学習に臨むことができる。
- 個に応じた指導・支援（教師の指導・支援）：座席表を活用し、児童一人一人が課題と

しているところや、発展学習ができる児童にはさらなる工夫ができるような指導に努め、主体的な書く活動へと促していく。

#### ⑥ 単元計画（全7時間）

- 0 次 伝記や自叙伝などを図書の時間や学級文庫などで慣れ親しむ。
- 第一次（1時間）単元のゴールを知り、自叙伝の特徴について知る。
- 第二次（5時間）相手に思いが伝わるように、章ごとに文章を書く。
- 第三次（1時間）書いたものを読みあい、よい所を認め合う。
- 実の場（活用） 学校図書館に展示したり、自分自身で書き溜めたりしていく。

#### ⑦ 指導の実態

- 0 次 歴史的人物の伝記や著名人の書いた自叙伝を区別して学級文庫として置き、児童の身近になる機会を設けた。また、児童一人一人が名言集めを行い、どうしてその言葉に心を惹かれたのかを書く活動を行った。
- 第一次 1時間目に自叙伝を書くことを伝え、文例を提示し、自叙伝とはどのような特徴があるのかを理解してから学習計画を立てた。イメージマップを用いて自分を変えた出来事を書き出し、どんなことを書きたいか考えを巡らせた。
- 第二次 2時間目には、一番伝えたいことを決め具体的な内容を付箋に書き出した。3時間目には付箋をもとに構成を考え、友達と交流をした。構成段階での交流は、友達から助言をもらい自信をもって記述に入った児童もいたが、内容が上手く伝わりきらず交流を終えてしまった児童もいた。記述では、構成に立ち戻ったり、推敲と記述を重ねたりして書き進める児童の姿が見られた。
- 第三次 完成した自叙伝を友達と読み合い、感想を伝える活動を行った。
- 実の場 出来上がった作品は、児童に誰に読んでほしいかを選ばせた。多くの児童は、自分自身で保管し、数年後に読み直したいと話していた。

#### ⑧ 指導・講評 講師 都小国研顧問 成家 巨宏先生

- 成長過程の節目で、子どもたちに自伝・自分史を書かせることは教育上大きな意味がある。子ども自身に書く意欲や生活体験等の取材活動が十分できれば意義のある活動となる。
- 自叙伝を書くということは、書くことを通して自己を見つめ直し、生活を見直す機会ともなり、結果的に書きながら自己内対話をしていることにもなる、価値ある学習活動である。
- 構成の基本は、始め・中・終わり。そこから順序の吟味を行い、なぜ変えたのかを考えることで思考が深まっていく。

## 5 成果と課題

文学的文章を書くという活動を通して、0次や文例、実の場のデザイン次第で主体的な学びになる。物語の登場人物との対話、物語をどういうストーリーにするかという構想段階での自分との対話や友達との伝え合い、書いている最中や書き終わって友達と読み合う場面での対話的な学びを必要と感じる。そして、このような書く活動、つまり非日常的な言語行為に浸ることが深い学びへと児童を誘うということに自信を深める研究となった。

# 主体的・対話的で深い学びとなる読むことの単元づくり

読むこと部長 古谷 勉

## 1 研究主題について

読むこと部では、昨年度の研究をもとに、読むことの指導を通して身に付けさせたい実生活に生きる言葉の力を「以後の学習や生活の場でも活用し、自分の考えを形成できる状態に近づいていくこと」一主として、論理的思考力（情報をつなげる、読み取ったことから解決策を考えるための）、コミュニケーション能力（他の人々と対話し、協力するための）、情緒・感性に関する力（文章から表現の良さを感じたり、問いをもったりするための）一と捉えた。この力を習得させることを「深い学び」と考え、その実現のために、主体的・対話的な学びの組み合わせ方や設定の仕方を工夫することなどを研究の柱とした。また、昨年度の課題として、深い学びを生み出すような単元構成や授業展開の工夫が挙げられており、児童に必然性を持たせるための学習課題の設定や深い学びにつながるような学習活動や言語活動の工夫にも重点を置くこととした。更に、より一層対話や交流の意図、目的、必要性を感じられるような対話的な学びにも力を入れ、研究主題に迫ることとした。

## 2 研究内容

### (1) 主体的・対話的な学びを実現する工夫

学習過程や言語活動への見通しをもつことができるようにし、児童がより明確に学習の目的や交流の良さ・必要性を感じながら学習を進められるような工夫を模索する。

### (2) 深い学びを実現する工夫

深い学びを「付けた力を、以後の学習や生活の場でも活用し、自分の考えを形成できる状態に近づいていくこと。」とする。

その学びを実現するために、学習材の特徴、子供の思考の流れを考慮して学習過程及び学習課題を計画する。その際、以下の点に留意する。

- 児童が対話・交流する必然性を感じられるような学習課題を設定すること。そうすることで、交流に向けて、また実際に交流する中で、考えが整理されたり、友達の考えとの共通点や相違点が明確になったりして、自分の考えが深まる（根拠がより確かなものになったり多角的な視点から自分の考えを見直したりできる）であろう。
- 蓄積してきた考えや押さえた叙述・交流活動を通してわかったことを振り返り、まとめる学習活動を位置づけるなど、深い学びにつながるようにすること。
- 同じ、あるいは関連する学習課題を3次に設定し、獲得した力を活用しながら、他の学習材を読み取ったり同じ学習材を捉え直したりし、自分の考えが形成できるようにすること。

### (3) 付けたい力の明確化

単元で付けたい力を、学習活動に即した具体的な評価規準にまで結びつけて教師が理解するこ



とで、的確な指導につながり、知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を高めることに結び付くであろう。

また、付けたい力を確実に獲得できるよう、学習課題や学習活動を適切に設定する。その課題を児童と共有することで、対話・交流の意図・目的が児童の中で明らかとなり、より主体的に対話・交流することができる。また、各学習活動の目的やゴールを認識しながら学習することで、付けたい力を主体的に習得できると考える。

### 3 研究経過

10月9日 目黒区立中根小学校 主幹教諭 市川 明日香

第6学年「私が読む物語」 講師 都小国研顧問 岸本修二先生

10月30日 世田谷区立喜多見小学校 教諭 浪久 隼斗

第3学年「豆たってどんな子？」 講師 都小国研顧問 岸本修二先生

11月26日 新宿区立牛込仲之小学校 教諭 小西 理恵

第1学年「おはなしのせかいをつたえよう」 講師 都小国研顧問 岸本修二先生

### 4 実践例1（第6学年）

(1) 単元名（学習材名）「私が読む物語」～自分の読み方を広げよう～

（「川とノリオ」教育出版 6年）

(2) 単元の目標

- 表現の効果を考えながら読み、自分の解釈を広げることができる。
- 様々な描写から、人物の心情や相互関係を捉えることができる。
- 作品を解釈することにより、文学的文章の読み方を広げ読書に親しむことができる。

(3) 単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○情景などを通して暗示的に表現されている描写などに気付くこと。	○叙述に基づいて、登場人物の心情や性格を多面的にとらえ、情景などの表現に着目して読んでいる。	○物語の描写から捉えられる個々の解釈の違いの面白さに気付き、共有しようとしている。
学習活動に即した具体的な評価規準	① 比喻や反復、色などの表現の工夫や効果に気付きながら読んでいる。(1・2・5時) ② 他の物語の優れた表現の効果やその良さを味わいながら読んでいる。(1・7・8時) ③ これまで気付かなかった優れた表現や描写の良さを見つけることができる。(1・7・8時)	① 物語に描かれている表現の効果を考え、物語の全体像をとらえている。(2・5時) ② 描写に着目し、人物の心情、相互関係を想像しながら読んでいる。(3・4時) ③ 場人物の心情や相互関係を描写から読み取っている。(3・4時) ④ 登場人物について心情や性格、考えなどを描写から多面的にとらえている。(6時) ⑤ 様々な表現の効果や暗示されているものを想像しながら読みとっている。(5・6・7時) ⑥ 個々の解釈を交流し、様々な表現の良さを認め合う。(8時)	① ① 様々な表現の効果に気付きながら読もうとしている。(1時) ② 既習の学習材を扱うことで、これまでの読みの力を生かして読もうとしている。(1・7時) ③ 様々な描写の表すものに気付き、交流することで、解釈を広げている。(7・8時)



#### (4) 単元構想

##### ① 児童について（児童観）

これまで児童は、様々な描写や表現の効果などに注目して想像豊かに読む経験を積んできている。本単元では、暗示的な表現や「川」の描写、その効果を考えながら登場人物の心情に迫る読みをさせ、友達と解釈を交流することで、自分の物語の世界を広げることに重点を置いた。

##### ② 学習材について（学習材観）

本学習材は、暗示性の高い表現が多く、心情の直接的な描写がほとんど見られない。人物像や全体像と関わらせながら登場人物の心情を読み取り、「川」について多様な視点から捉えることで、自分の解釈もつことができ、それを交流する楽しさを味わうことができると考えた

##### ③ 単元について（単元観）

本単元では、これまでの学習経験を生かして物語を主体的に読み進め、友達と交流して考えを深める楽しさを味わうことで、中学校に向けて自分の読みの力に自信をもたせたいと考えた。学習材では「川」について自分なりに解釈をもち、それを友達と交流する。さらに児童が選んだ既習教材を読み返して新たな解釈をまとめることで、六年間の自分の成長を児童自身が実感することができるよう単元を計画した。

#### (5) 研究主題に迫るために

高学年分科会における

主体的な学び・・・児童が読みの視点や個の課題を自ら設定するなど、これまでの学習経験を生かし、自らの力で物語文を読み進めようとする学び。

対話的な学び・・・交流によって多様な解釈に触れ、自分との共通点、相違点、関連性について話し合うことで、自分の読みを広げ深める学び。

深い学び・・・自分の力で読み取り、友達と交流することを通して、物語の新たな魅力に気付いたり、自らの考えを広げたりする学び。

##### ① 主体的・対話的な学びの実現のために

文学的文章を知識や経験と照らし合わせて自分なりに読み取り、その考えを友達と話し合う楽しさを味わわせるため「文学座談会」を言語活動として設定した。一次で「プレ文学座談会」を行い、楽しさを味わせたことで、「座談会を充実させたい」「そのために、読んで自分なりの考えをしっかりともちたい」という目的意識をもって学習材の読み取りに入ることができた。また、多様な考えに触れるため「文学座談会」の際だけでなく、毎時間の学習にグループ交流を行った。知識や経験と照らし合わせながら読む「自分との対話」からグループで考えを共有する「友達との対話」につなげる学習の流れにすることで、自分の考えの広がりや深まりが毎時間実感できると考えた。

##### ② 深い学びの実現のために

小学校最後の文学作品の学習となる本単元では、正確に読み取って終わるのではなく、読み

取った内容を自分の経験や考えに照らして解釈しながら読むことで、その後の読書人生につなげたいと考えた。しかし、ただ「解釈する」ことを提示しても6年生にはまだ難しい。そこで第一次、二次、三次全てにおいて「木」「川」など「物語の鍵となるもの」を決め、それに対する自分の解釈をもつという学習を行う。解釈の対象を設定し読みを焦点化することで、解釈がしやすくなると考えた。また、座談会の際に「木について」「川について」など共通の話題をもつことで、交流による広がりや深まりも生まれた。解釈する対象も、第一次では教師から提示し、第二次では児童の言葉から設定し、第三次では、扱う作品と何を解釈するかまでグループ別に決めさせるという段階的な指導を行うことで、自分たちで見つけた解釈であるという実感が得られるような単元の流れを設定した。

### ③ 付けたい力の明確化

まず本単元における「解釈」について「文章全体を読んで、物語の流れや描写、表現等を手がかりに自分なりの考えをもつこと」と定義づけ、学級全体で共通理解を図った上で単元に入った。今までのように場面の様子や登場人物の心情などを読み取ってまとめるだけの学習ではなく、自分自身の内面や経験、身に付けてきた読みの力と照らし合わせて文学作品を自分なりに捉え考えることで作品に対する理解が深まること、今後の読書生活に生きる力となること、自分の見方・考え方が広がることなど、「解釈する」ことによって身に付く力や豊かな感性に気付かせたいと考え、「解釈シート」と「文学座談会」手立てとした。「プレ座談会」を行い、そこでの児童の気付きや初発の感想から身に付けたい力や学習計画をつくっていった。

### (6) 単元計画

第一次（第1・2時）既習教材を用いて物語の「解釈」について考え「プレ文学座談会」を行って学習の見通しをもつ。

第二次（第3～7時）「川とノリオ」を読み、人物像や相互関係、描写や表現を読み取りながら、「川」についての自分の解釈をまとめ、「文学座談会」を行う。

第三次（第8～9時）既習教材について「文学座談会」を行う。

### (7) 単元の指導の実際

#### 第一次

第1時：教師が「モチモチの木」における「せっちん」について自分の解釈をまとめたものを児童に提示し、物語は多様な「解釈」ができると知った。何気なく読んでいた部分に思わぬ効果や意味があることに気付き、興味をもっていた。物語の流れや主題に大きく関わる「鍵となるもの」の存在があるということについて話し合った。

第2時：前時に話し合った「モチモチの木」の「木」について、自分の解釈をまとめ、学級で「プレ文学座談会」を行った。同じ木について解釈しても、人によって捉え方が異なることに気付き、交流する楽しさを味わった。

#### 第二次

第3時：学習材「川とノリオ」を通読し、初発の感想をまとめた。感想を交流し、でてきた意見や疑問を基に、学習計画を立て、読みの視点を設定した。前時の「物語の鍵となる

もの」について考えている児童も多く、「川」について考えたいという意見が早速出てきた。

第4時：ノリオに注目して物語を三つの場面に分けた。ノリオの年齢で分ける、心情で分ける、出来事で分ける、など様々な分け方の意見が出された。「川の描写に注目する」という意見が出され、大きな手がかりとなった。その中で「川が状況や時代背景を暗示している」という意見が出てきた。

第5時：川の描写に注目して、ノリオの心情をまとめた。心情描写はほとんどないが、様々な描写がノリオの心情を暗示していることに気づき、前時の場面分けと合わせてノリオの心情をまとめることができた。ノリオにとって川は「友達」「兄弟」といった捉え方が見つかった。

第6時：表現の効果や工夫について登場人物の心情や相互関係と関連づけながら読み取った。色の表現や比喻、オノマトペ、体言止め、反復など様々な技法が用いられていることに気づき、その効果について考えた。「すすき」「あひる」「川が流した物」など暗示的な描写について読み取り、共有した。改めて「川」がこの物語を読み取る上で大きな鍵となっていることに気付くことにつながった。

第7時：「川」について自分の解釈「解釈シート」にまとめ、グループ→全体で「文学座談会」を行った。「川はノリオの心情を表している」「川はノリオの兄弟」「辛くても強く生きていかねばならないという人々の現実を暗示している」など交流によって多様な考えに触れることができた。

### 第三次

第8時：既習の「一つの花」「わらぐつの中の神様」において、物語の鍵となるものは何かを考えた。「一つの花」からは「コスモス」「おにぎり」「プラットフォーム」、「わらぐつの中の神様」からは「わらぐつ」「雪げた」などが出てきた。グループで一つ選び、個人で解釈シートに解釈をまとめた。

第9時：前時にまとめた解釈シートを基に、グループで文学座談会を行った。自分の意見と友達の意見の共通点、相違点、関連性などに気づき、自分の考えの広がりや深まりを感じたり、学習した当時は気付かなかったことに気付いたりなど、自分の読みの力の成長を実感することができた。

#### (8) 指導・講評 都小国研顧問 岸本 修二先生

○「川とノリオ」の「川」について多様な捉え方をすることはできていた。肝心の「文学座談会」のもち方に課題が残る。児童から共通点、相違点、関連性について言及させ交流に深まりが生まれるよう、板書の構造化を図ると良い。

○物語の全体像を捉え内容について深く考えさせるために、あえて「物語を三つの場面に分ける」という手立ては有効であった。

## 5 実践例2（第3学年）

(1) 単元名（学習材名）「豆太ってどんな子？」～登場人物の人がらを想像し、伝え合おう～  
 （「モチモチの木」光村図書 3年下）

### (2) 単元の目標

- 様子や行動、人柄や性格を表す言葉に着目し、気持ちや性格を表す語句を増やすことができる。
- 叙述を基に登場人物の気持ちを想像することができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、登場人物の人物像を具体的に捉えることができる。
- 進んで物語を読み、登場人物の人物像を伝えようとする。

### (3) 単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目し、会話や文章で表現するときに必要な語句を使っている。	○叙述を基に登場人物の行動や様子、気持ちなどを捉えている。 ○登場人物の性格や気持ちの変化を、場面の移り変わり結び付けて想像している。 ○物語を読んで理解したことに基づいて、豆太の人物像を考えている。	○登場人物の人柄を伝えるために進んで本を読み、友達にポスターで説明しようとしている。
学習活動に即した 具体的な評価規準	①登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目して読み、話したり書いたりしている。 ②今まで気付かなかった新しい表現を見つけ、使っている。	①場面のつながりを意識しながら、物語の内容の大体を捉えている。 ②登場人物の言葉や行動、様子や気持ちなどについて叙述を基に考え、気持ちの変化を場面の移り変わりに関連させながら想像し、表現している。 ③登場人物についての性格や人柄、気持ちなどを叙述から具体的に捉えている。 ④友達と交流し、様々な思いや考えがあることに気付いている。	①登場人物の人物像を探りながら作品を読むことを理解し、進んで文章を読もうとしている。 ②学習したことを基に、根拠をもって登場人物の人物像をポスターで説明しようとしている。 ③登場人物の人物像について、様々な表現に触れ、自分の考えを伝え合おうとしている。

### (4) 単元構想

#### ① 児童について（児童観）

これまで児童は、叙述を基に登場人物の様子や気持ちの変化を捉える学習を行ってきた。具体的には、行動や会話の中から根拠となる言葉や文を探し、様子や気持ちの変化を捉える学習を行ってきた。

本単元では、最初の場面と最後の場面で、登場人物の行動に変化が見られない。そこで、場面と場面を関係付けたり、物語の中心となる場面から登場人物の気持ちを豊かに想像させたりする学習が必要不可欠となる。同時に、情景を捉える力として、冬の真夜中の峠道や幻想的なモチモチの木を想像させる学習も取り入れたい。



## ② 学習材について（学習材観）

主人公の豆太は、夜中に一人で小便にも行けないほどの臆病者だが、ある夜、大好きなじさまが腹痛で苦しむ姿を見て、夜道を恐れながらも、医者様を呼びに走るといふ物語である。

物語の場面は、5場面構成されており、場面ごとの内容も簡潔でとらえやすく、豆太の言葉や行動から性格も分かりやすく描かれているという物語の特徴がある。また、物語の展開の面白さだけでなく、物語の中核を担う場面からは、登場人物の気持ちの変化に着目した読みがしやすいといえる。そして、豆太は臆病でありながら、勇気のある行動をやってのける姿に児童は心を引きつけられ、豆太への思いや感じ方が変化するであろう部分を中心に、豆太の人物像を追究する読みをさせたい。

## ③ 単元について（単元観）

本単元では、叙述を基に豆太はどんな人物なのかを多面的に想像させる力を身に付けさせ、それを自分なりの言葉で表現するために、豆太の心ポスターを作成する言語活動を取り入れた。そのために、人物を表す言葉や物や事柄を表す言葉を知ることが学習過程に入れ、人物像を論理的に考えたりする力、言葉によって自分の考えを形成したりする力を付けさせる必要があると考え、単元化した。

## (5) 研究主題に迫るために

中学年分科会における

主体的な学び・・・児童が自ら読みの課題を設定し、自らの力で課題解決のために物語文を読み進めようとする学び。

対話的な学び・・・友達と思いや考えの交流を通して、自分の捉え方との共通点、相違点を意識し、様々な考えに気付く学び。

深い学び・・・課題の中心を意識しながら、友達と交流することを通して、物語の面白さに気付いたり、自分の考えを広げたりする学び。

## ① 主体的・対話的な学びを実現するための工夫

初発の感想を用い、児童の心に残ったことや疑問に思ったことなどをみんなで精選し、本単元の学習課題とした。その学習課題を解決するための方法として、物語の構造を捉え、叙述から気持ちや行動の変化を見つけ、そのきっかけを捉える学習をすることも児童自ら考えた。また、叙述から分かる豆太の言葉や行動、様子などから、人物の気持ちや気持ちの変化を考えて、自分なりに想像したことを友達と交流し、自分の意見と比べる。個人→グループ→全体へと様々な考えを知る中で、共通点や相違点の中から自分の考えを分析する力を身に付けることができると考えた。



## ② 深い学びを実現するための工夫

単元の課題の中心（豆太ってどんな子？）をどの時間も意識して学習することで、より多面的に人物像を捉えさせることができると考えた。人物の言葉や行動、様子だけでなく、場面と場面を関連付けて分かる情報。交流活動の中で知り得る情報、また、交流を通して変化する自分自身の考えを改めて解釈することで、深い学びが生まれると考えた。同様に、様々な視点から物語の面白さを広げていけると考えた。

## ③ 付けたい力の明確化

単元を通して、気持ちや性格を表す語句を増やすことができるように、人物像に関わる言葉をクラス全体で共有したり、必要に応じて辞書を用いて調べたりする活動を設けた。そうすることで、第三次で「豆太の心ポスター」を書くときの語彙を増やすことができると考えた。

また、叙述を基に登場人物の気持ちを想像することができるように、全文シートを活用し、場面ごとの気持ちに色分けしたサイドラインを引き、気持ちの変容を視覚化できるようにした。そこから捉えられた豆太の気持ちを想像し、より豆太像が広がるように「豆太の心ポスター」を図式化し、表現させることを手立てとして考えた。

## (6) 単元計画

第一次 一般的に親しまれているアニメのキャラクターの人物像への迫り方を学習モデルとし、豆太の人物像に迫るという課題設定を理解しながら、学習計画を立て、学習の見通しをもつ。

第二次 学習材を読み、豆太の言葉や行動、様子等から人物像を捉えるための材料となる言葉や表現などを見つけていく学習過程を設定する。

第三次 学習材から読み取った表現を基に、「豆太の心ポスター」に自分で考えた豆太像を書き、互いに伝え合う。

## (7) 単元の指導の実際

### 第一次

第1時：「ドラえもん」に登場するのび太の性格について話し合い、のび太の性格や特徴などを表す言葉をたくさん挙げ、学習のゴールへの見通しをもつことができた。

第2時：全文を読んで、物語のあらすじをまとめたり、登場人物を確認したりした後に、初発の感想を書いた。

第3時：初発の感想を基にみんなで学習課題を考え、学習計画を立てた。

### 第二次

第4時：叙述を基に、「豆太の臆病な性格」について焦点化し、話し合い活動を通して共通理解した。

第5時：前時の学習を踏まえ、叙述を基に「豆太の勇気」を見つける学習を行う。違いを明確にし、そのきっかけとなる部分を正確に読むことができた。

第6時：第4時と第5時を対比させながら、根拠をもって自分の考えを形成し、豆太の人柄に迫る学習をした。課題提示（発問）から、答えが3択になったが、答えの根拠は明確にもっていた。また、交流活動の中で、人柄を多面的に捉えている様子も垣間見られた。

### 第三次

第7時：第二次の活動から自分が考える豆太像を、心ポスターに視覚化してまとめることで、人柄を多面的、分析的に捉えることができた。

第8時：ポスターによって互いの考えを紹介したことで、それぞれの考えが広がり、新しい発見があった。また、単元全体の学習を振り返ることもできた。

#### (8) 指導・講評 都小国研顧問 岸本 修二先生

「臆病な豆太は、勇気ある少年へと変わったのか考えよう」という発問だと、「変わった」、「変わらない」、「どちらとも言えない」としか表現できない。そこで、「豆太は何も変わっていないの?」、「臆病な豆太はどんな少年になったの?」などの発問だと、具内的な答えの表現ができたのではないか。

今回、豆太の二面性だけを捉えさせるのではなく、もっと多面的に考えさせてもよかった。そもそも人柄とは、たくさんの要素からできているので、多面的に捉えさせてよい。

また、個人からグループ交流をさせた際、同質の答えをもっている者同士の話し合いでは、話し合いの内容が深まりにくい。深い学びとは、情報と情報を関連付けて考えられるか、複数の異なる情報を構造化していくことにある。文字情報と音声情報を合わせた交流形態を用いるとよい。話し合い活動は、教師の板書による意見の整理（板書の教材化）が必要不可欠。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

- 心情を表す直接表現はないが、暗示的な表現や心情、情景から、作品について多様な捉え方をすることはできていた。二次での読みの視点が、三次の学習にもその後の読書生活にもつながるような指導をすることができた。
- 学習モデルの活用は、十分有効であった。身近なキャラクターを対象にし、学習の仕方を単元の初めに示したことにより、児童が課題を見通すことができ、めあてやそのために必要な学習をイメージするのに効果的であった。

### (2) 課題

- 児童から挙げた発言を順番通りに板書するのではなく、事前に児童の発言を予測しておき、似た意見をまとめて書くなど構造的な板書が必要である。板書も通して、深い学びにつなげることができるようにしたい。
- 深い学びにつなげるための『思考ツール』の活用。学習してきた内容をつなげて、どう考え

を形成させていくかの手だてをさらに講じていく必要がある。また、交流し共有したことを確実に考えの形成に生かせるようにする手だて（例 ホワイトボードを活用したグループ交流や構造的な板書等）が必要である。

# 言葉のよさに気付き、 親しみ、日常生活に生かす単元づくり

言語部長 小川和美

## 1 研究主題について

### (1) 研究主題について

全体研究主題「未来を拓く国語教育の創造 ～主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり～」を受け、言語部では、研究主題を「言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくり」と設定して2年目となる。本研究主題は新学習指導要領国語科の目標（3）「言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」ことにつながるものである。平成28年度までの「伝統的な言語文化」に関する研究成果を踏まえつつ「我が国の言語文化に関する事項」に留まらず、語彙の拡充を図りながら「言葉の特徴や使い方に関する事項」に重点を置き、研究を深めていくこととした。「言葉」を指導の中心に据えて研究に取り組む言語部は、学びを通して児童が言葉と関わり、言語感覚を養って、自己の言語生活に生かすことを目指している。

### (2) 「言葉への気付き」「言葉に親しむ」とは

言葉には特徴や使い方があり、様々な働きやよさがある。それらを児童が認識することを言語部では、「言葉への気付き」「言葉に親しむ」の二つの段階と捉え、以下のように定義し、研究を進めることとした。

言葉への気付き：課題意識をもって身近な言葉と出合うこと

（低学年）感じる （中学年）気付く （高学年）認識する

言葉に親しむ：言葉と出合い、使ったり調べたり考えたりすること

## 2 研究内容

低中・高学年の二分科会において「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」における学習材の開発、単元化を中心に研究主題に迫る。

- ・児童の言葉に対する興味・関心や学習への意欲を高められるよう、児童の日常生活や身近な生活文化の中から素材を見付け、学習材として練り上げる。
- ・単元構成を「出合う」「親しむ」「生かす」の3段階とし、言葉についての認識を深めたり、語彙を増やしたりして、身に付けた言葉の力を事後の学習や日常生活に生かす単元づくりを行う。
- ・児童が主体的に終末の活動を設定し、その実現のために学習計画を立てたり、活動を振り返ったりすることができる単元構成を工夫するとともに単元構造図を作成し、全体像を明確にする。
- ・実践報告を行わない学年については、「授業実践アイデア集」を作成・提示し、「言葉」に関わる実践を促進する。

### 3 研究経過

(1) 夏季一日研修会 7月31日 基礎理論研究 講師 都小国研顧問 今村 久二 先生

(2) 夏季半日研修会 8月8日 基礎理論研究

#### (3) 授業実践

9月20日 杉並区立八成小学校 主任教諭 岡崎 智子

第2学年「うれしいことば大研究：うれしいことばはっけん～ことばたんてい～」

講師 都小国研顧問 今村久二先生

10月23日 府中市立府中第一小学校 教諭 北原 亜紀

第4学年「未来につなごう！府中一小ネーミング計画」

講師 都小国研顧問 今村久二先生

11月20日 大田区立田園調布小学校 主任教諭 小木 和美

第5学年「同訓異字語で遊ぼう～あこがれの同訓異字語マスターになろう～」

講師 都小国研顧問 今村久二先生

### 4 実践報告

#### (1) 低学年実践報告 第2学年実践

① 単元名 「うれしいことば大研究：うれしいことばはっけん～ことばたんてい～」

#### ② 単元の目標

- 言葉には、人を「うれしい」気持ちにする働きがあることや、同じ言葉でも状況によって受け手の感じ方が変化することに気付く。

#### ③ 単元の評価規準

	ア 知識・技能	ウ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準 単元の	言葉には人をうれしい気持ちにする働きがあることや、状況の違いによって感じ方が異なることを理解している。	言われてうれしい言葉に関心をもち、調査する活動を通して、言葉の働きに気付き、自分の言葉の使い方を見つめようとしている。

#### ④ 単元構想

##### ア 児童について（児童観）

進級してから友達と過ごすことへの関心が広がったり、互いの理解が深まったりしてきている。一方で、友達に腹をたてたり落ち込んだりする姿も見られるようになった。事情を聞いてみると、やり取りの中で話し手の意図と、受け手の受け取り方が異なっていることが多い。言葉に相手の気持ちを左右する働きがあることや、同じ言葉でも受け手次第で感じ方が変わるということは、意識していない様子である。

##### イ 学習材について（学習材観）

私たちは、言葉のやり取りを通して周囲の人と意志疎通をしながら生活している。言葉で、必要事項を伝え合うとともに、人に思いを伝えたり人の思いを受け取ったりしながら関わりを広げ深めている。ときには、相手から発信された言葉で喜んだり悲しんだり怒ったりする



ことがある。よりよい人間関係を築いていくためには、自分が発した言葉に相手の気持ちを左右する働きがあることを意識し、相手の気持ちも慮って言葉を発することが必要である。日常生活の中で言われて「うれしい」と感じる言葉（以下「うれしい言葉」）を学習材とすることで、以下3点の言葉の働きに迫ることができるのではないかと考える。

- ①「人によってうれしいと感じる言葉が異なる。」
- ②「同じ言葉でも、うれしいと感じた理由（エピソード）が異なる。」
- ③「同じ言葉でも、その言葉を言われた状況によって、受け取り方が変わってくる。」

#### ウ 単元について（単元観）

児童が、言葉に相手の気持ちを左右する働きがあることや受け手次第で感じ方が変わるということに気付き、自分自身の言葉の使い方を意識することができるような学習をしたいと考え、本単元を設定した。

自分の「うれしい言葉」を見つめ直したり、友達や教師、家族の「うれしい言葉」を調べたりすることで、2年生なりに言葉の働きに迫っていく。調べた結果を報告し合う中で「言葉は人をうれしい気持ちにすることがある」「うれしい言葉は、人によって違う」ということに気付かせたい。途中、資料を提示し「言われたときに何をしていたかによってうれしい気持ちが変わってくる」ということにも気付かせる。自分の「うれしい言葉」のエピソードを書くことは、自分自身の感じ方や言葉の使い方をじっくりと見つめ、振り返ることにつながる。さらに、全員が書いたものを冊子にして読み合うことで、「この子は、こんな状況で、こんなふうに言われたからうれしかったんだ。」と言葉や友達への理解を深めることができるだろう。そうすることによって、言葉の使い方への意識も高められると考えた。

「ありがとう」「よかったね」等の相手をうれしい気持ちにする言葉を使うだけでなく、相手のことを思って言い淀んだり言葉を選んだりするような言葉の使い手を育てていきたい。

#### ⑤ 研究主題に迫るために

本単元における主体的な学び・対話的な学び・深い学びの姿を、以下のように考える。

【主体的な学び】…言葉への興味・関心をもち、自分で考えながら学びを進めていく。

- ・既習の学び方を活用し、こうしたいという思いをもって学習に取り組んでいる。
- ・「うれしい言葉」に関心をもって、自分から調べたりまとめたりしようとする。
- ・言葉への興味・関心を広げたり、自分自身の言葉の使い方を振り返ったりする。

【対話的な学び】…人とのやり取りを通して、「うれしい言葉」に関する気付きを深める

- ・様々な人にインタビューをして、出てきた言葉や話し手への理解を深めている。
- ・報告し合い共通点や相違点を探す中で、言葉の働きや特徴に気付いている。

【深い学び】…言葉の働きの捉えを新しくする。

- ・友達、身近な大人と2度の調査活動を通して、言葉の働きへの気付きを深めている。
- ・状況に着目して感じ方を交流し、よりよい言葉の使い方について考えている。

## ⑥ 単元計画

1次：「出合う」（3時間）

○言われて「うれしい言葉」について課題意識をもち、学習計画を立てる。

2次：「親しむ」（課外+4時間）

（課外）家族の「うれしい言葉」（言葉とエピソード）をインタビューする。

○集めた「うれしい言葉」を報告し合い、状況に応じた言葉の働きについて考える。

○自分の「うれしい言葉」とエピソードを文章化して読み合い、よりよい言葉の使い方について考える。

## ⑦ 指導・助言（講師 今村 久二 先生）

- ・人間性、関係性としての言葉に着目し、2年生なりに「言葉のよさ」に迫る単元であった。
- ・児童は、提示資料（身近な生活場面）と教師の語りによって場面の状況を理解し、言葉から受け取る感じ方についてよく考え、一生懸命言葉にして伝えようとしていた。
- ・児童が1次で学習に名前を付けたのはよかったが、その時点で単元名を差し替えるべき。
- ・本時前半と後半のつながりがなく唐突に状況による感じ方の違いを考える活動に入った。家族に調査した結果を生かした資料提示等で意識が自然とそちらに向くようにすべき。

## (2) 中学年実践報告 第4学年実践

### ① 単元名 「未来につなごう！府中一小ネーミング計画」

### ② 単元の目標

- 校内の場所に対する人々の思い・願いに即した通称を考えることにより、言葉には思いや願いを伝える働きがあることに気付く。

### ③ 単元の評価規準

	ア 知識・技能	ウ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準 単元の	名称には、人々の思いや願いが込められているものがあり、言葉には思いや願いを伝える働きがあることを理解している。	校内の場所の通称を考えるという活動に関心を持ち、思いや願いを込めた名称を付けようとしている。

### ④ 単元構想

#### ア 児童について（児童観）

新しい言葉の意味を調べたり覚えたりすることに興味をもって取り組み、読書に対する関心も高い。出来事や自分の思いを文章にする際は、伝わりやすいように言葉を選んで書き進めたり、推敲して別の言葉に書き換えたりする意識は十分とは言えない。話し合いでは、友達の意見との重なりを見付け、よりよい内容にまとめようとする意識が全体に見られるようになってきた。しかし、一部の児童は、友達の意見を肯定的に捉えてよりよい内容にすることに目を向けることが難しい様子である。

#### イ 学習材について（学習材観）

私たちの身の回りには、正式名称ではなく、通称で呼ばれているものや施設が多くある。もので言えば擬態語や擬音語で呼ばれる様々な商品の名称、施設で言えば「○丁目児童遊園」

などが、そこにあるシンボルなどに合わせて「ロケット公園」「恐竜公園」などと呼ばれている。正式名称ではなく、通称で呼ばれている理由は以下のように考えられる。

①通称の方が、そのものや施設の特徴を適切に表している。

②通称を聞く側に、そのものや施設の印象が伝わりやすい。

③言葉が端的で覚えやすい。

④身近な言葉であるほど、親しみをもちやすい。

本單元においては、特に④に着目する。「身近な言葉」とは、日常生活の中で児童が使っている言葉である。その言葉で呼ぶことで、対象に対する親しみが増し、愛着がわくと考えた。

#### ウ 単元について（単元観）

児童が言葉について考えることを通してその特性に気づき、言語感覚を養うことができる学習をしたいと考え、本單元を設定した。本單元では、人の願いが込められた通称を自分たちで考える活動を通して、児童一人一人が言葉の働きについて理解し、日常生活の中にある言葉と人々の思いや願いとのつながりに興味をもてるようにしたいと考えた。

145周年記念活動の一環として大事にしたい校内の場所にネーミングをすることで、言葉の働きに迫る。まず、身近な例を通して名称や通称に込められた思いや願いに気付かせる。その上で校内の場所の中から特に思い出深いところを選び、友達や教職員へのインタビューを通して、その場所についてのエピソードや思い、願いを収集していく。そして、自分の思いと併せて通称を考え、友達との話し合いを経て命名していく。通称を考えることによって、思いや願いを表す働きや特性があることに改めて気付けるだろう。友達との対話を通して思いを表すために選択した言葉の違いや予想していた伝わり方との違いに驚いたり、より思いや願いが伝わるように言葉を吟味したりする活動を通して、正誤・適否・美醜といった言語感覚を養うことができると考えた。

相手への伝わり方を意識し、より適切な言葉を選ぶ言葉の使い手を育てていきたい。

#### ⑤ 研究主題に迫るために

本單元における主体的な学び・対話的な学び・深い学びの姿を、以下のように考える。

【主体的な学び】…名称・通称を考えることの興味・関心を高めながら学びを進めていく。

- ・通称を考える校内の場所を自ら選ぶことにより、思いをもって学習に取り組んでいる。
- ・自分や他者の対象（場所）への思いや願いについて、すすんでインタビューをしている。
- ・言葉への興味・関心を広げたり、自分自身の言葉の使い方を振り返ったりする。

【対話的学び】…人とのやり取りにより、思いや願いの込められた言葉への気づきを深める。

- ・様々な人にインタビューを行い、場所に込められた思いや願いへの理解を深めている。
- ・思いや願いを基に通称を考え、話し合う中で、言葉のもつ働きや特性に気付いている。

【深い学び】…言葉に込められた思いや願いに気づき、自ら込めようと言葉を吟味する。

- ・思いや願いの込められた名称を知ったり、自分たちで思いや願いの込めた名前を考え

- ・ たりする活動を通して、名称や言葉に込められた思い・願いを考えている。
- ・ 思いや願いがより伝わるように言葉を選択する必要があることに気づき、より適切な言葉を探して命名しようとしている。

⑥ 単元計画

1次：「出合う」（2時間）

- 通称を意識し、校長からの依頼を基に学習計画を立て、通称を付ける場所を決める。

2次：「親しむ」（5時間）

- 友達や教職員に、通称を付ける場所についての思い出や願いについてインタビューする。
- その場所に込められた思いや願いをグループで整理し、キーワードにまとめる。
- キーワードを基に思いや願いの込めた通称を考え、グループで話し合っ決定する。その後、校内マップに通称を書き込む。

⑦ 指導・助言（講師 今村 久二 先生）

- ・ ネーミングには象徴・比喩・ひねりなどの要素が含まれている。4年生は抽象化する力がまだ育っていないので、概念を解きほぐす必要がある。
- ・ 第1次と第3次の工夫が必要である。出合いが突然降ってくるようにならないこと。まずネーミングをして楽しいと感じてから、思いや願いが込められていることに気付くという流れも考えられる。親しむ段階は、ネーミングについてマーケットリサーチをするとよい。
- ・ 児童にとって尻切れトンボにならないように、エンディングは工夫が必要である。インタビューした人や依頼者からのフィードバックをもらえるようにしたい。

(3) 高学年実践報告 第5学年実践

① 単元名 「同訓異字語で遊ぼう ～あこがれの同訓異字語マスターになろう～」

② 単元の目標

- 同じ読み方をする違う漢字について、理解を深めて正しく使えるようにする。
- 同じ読み方をする漢字について知り、興味をもつ。

③ 単元の評価規準

	ア 知識・技能	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分ける必要性に気づき、注意して正しく書いている。</li> <li>・ 同訓異字語・同音異義語の例を知り、それぞれの意味や使い分け方を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分から同訓異字語を集めたり、意味を調べたり、違いをまとめたりしている。</li> <li>・ 同訓異字語・同音異義語について知り、言葉や漢字への興味を深めている。</li> <li>・ 同訓異字語の意味や使い方の違いについて、すすんでまとめ、発表している。</li> </ul>

④ 単元構想

ア 児童について（児童観）

学習には素直に前向きに取り組む。塾等で先行学習している児童も多く、知識量に偏りがある。知識を活用して考えを表現するのは苦手な児童が多く、少し難解な問題では無答も見られる。ペアやグループでの関わり合いの経験は豊富で、スムーズに話題に沿った話合いが



行える。司会の役割を行う児童は自然に発生するが、学習を人任せにする児童も若干数いる。本単元では一人一人の課題について互いに意見を出し合う形を取り、自分が責任をもって話し合いに参加したり、相手の意見を引き出したりする必要のある場面を設定した。

#### イ 学習材について（学習材観）

本単元では、同訓異字語を調べて意味を理解し、整理して説明する活動を行う。正しい表記の仕方を知ること、文意が漢字によって明確になること、漢字一文字がもつ意味の幅広さを感じ取り、楽しみながら学ぶことをねらいとしている。同訓異字語には、字義がほぼ同じで、同様の使い方をするもの、字義が類似していて使い分けるもの、字義が異なるが、たまたま訓では同じ読みをするものと分けられる。特に字義が類似するものは使い分けが難しい。

文例や意味、熟語や対義語を示すことなど、複数のやり方で同訓異字語を理解できるようにする。同訓異字語やその使用例を探したり集めたりすることで、より生活の中で必要な知識として意識させたい。また、辞書としての意味に限らず、用例や熟語、どのような場面で使用されるか等、実際に生活場面で使用することを想定して学習させたい。

#### ウ 単元について（単元観）

楽しみながら同訓異字語に触れたり、調べたり、遊んだりすることを通して、漢字に対する関心を高めるとともに、意味の違いや使い方を知り、理解を深めてほしいと考えた。同訓異字語とその意味や熟語、例文などを整理した「漢字シート」に表すときには、国語辞典や漢字辞典、同訓異字に関する書籍などを教室に設置し、意味や用例の調査に実施する。まとめたものは、友達への説明の方法としても使用する。説明の仕方については、単元の初期に教師が例を示すとともに、児童の創意工夫も生かしていく。発表の前には、少人数グループでお互いにアドバイスを行うことで、調べたことを共有し、理解を深められるようにした。

#### ⑤ 研究主題に迫るために

本単元における主体的な学び・対話的な学び・深い学びの姿を、以下のように考える。

【主体的な学び】…同訓異字語への興味・関心を高め、自分で考えながら学びを進めていく。

- ・生活の中から同訓異字語を取り上げて扱い、特徴を知って、楽しみながら取り組む。
- ・使い分けを知りたい同訓異字語を、身の回りや書籍、経験からすすんで集めている。
- ・調べたい同訓異字語を選び、意味を調べたり、まとめたり、説明したりしている。
- ・既習の学び方を活用し、こうしたいという思いをもって学習に取り組んでいる。

【対話的な学び】…友達や周りの人々とのやり取りを通して、同訓異字語への理解を深める。

- ・友達と交流し、どのような同訓異字語があるか、知識を広げている。
- ・小グループで同訓異字語の使い分けの説明が適切かどうかアドバイスをし合う。

【深い学び】…同訓異字語の知識を深めるとともに、漢字についての見方を広げる。

- ・友達、身近な大人と2度の調査活動を通して、言葉の働きへの気づきを深めている。
- ・状況に着目して感じ方を交流し、よりよい言葉の使い方について考えている。

#### ⑥ 単元計画

1次：「出合う」（1時間）



○同訓異字語によってすれ違いが起こる短い劇を児童が演じ、同じ読み方でも異なる意味をもつ言葉の存在に気付かせる。自分たちの生活の中にも同じ読み方をする漢字が数多くあることに目を向け、調べることへの意欲を高める。

○同訓異字語を区別して使えるようになることを目標に、集めたり調べたり発表したりする学習計画を立て、単元名を付ける。

2次：「親しむ」（課外＋3時間）

○課外で集めた同訓異字語の中から選択し、理解を深めたい字を担当して調べ、「漢字シート」に整理する。

○学級内での発表会に向けて、「文づくり」「クイズ」「なぞかけ」「劇」といった説明の仕方を自由に選択し、より印象深く区別がつく方法を考える。

○発表と共に「漢字シート」を共有することで、より正しい知識を得られるようにする。

#### ⑦ 指導・助言（講師 今村 久二 先生）

・主体的な姿がみられた。①課題を自分たちの中から生成する。②行動の展開を可視化し、自分たちでゴールを設定する。（単元計画と単元名を自分たちで決める。）③既存の方法知を動員し、言語活動を遂行する。

・解決・克服のための知識・技能の習得と活用の時間が1時間設定では短い。

・日常生活とつなげるために、課題の生成や今後の活動をさらに日常生活と関連付ける。

・個々の作業のタイムラグへの配慮（協力体制）や個人の作業への支援（手引きの作成）を見直す。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

○ 児童の日常生活や身近な生活文化の中から素材を見付け、学習材として練り上げて単元づくりを行ったことによって、児童の言葉に対する興味・関心や学習意欲を向上させることができ、言葉のよさに気づき、親しむ姿が見られた。

○ 単元構成を「出合う」「親しむ」「生かす」の3段階としたことによって、課題意識をもって言葉と出会い、認識を深めたり、語彙を増やしたりする児童の姿が見られた。また、身に付けた言葉の力を事後の学習や日常生活に生かそうとする児童の意欲が高まり、日常生活に生かす姿が期待できた。

○ 単元構造図を作成することによって主体的・対話的で深い学びの実現という視点から児童の学びを整理し、意識して指導に当たることができた。

### (2) 課題

○ 言語の知識・技能及び語彙の拡充を図る単元開発を継続し、単元計画や指導方法をさらに工夫する。

○ 「授業実践アイデア集」の作成・改善を継続し、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の指導実践事例を蓄積する。

# 研究の成果と課題

研究担当副会長 河村 祐好

本年度は、昨年度に引き続き、研究主題「未来を拓く国語教育の創造」のもと、「主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり」を副主題として研究を進めた。

## 研究の成果（◇）と今後の課題（＊）

### 【話すこと・聞くこと部】

◇本時で目指す話し合いの例示によって、目的や役割にあった考え方をしたり、付けたい力や良い話し合い方を意識したりして話し合いができていたこと。

◇付けたい力や目的に合わせてグループの人数や形態を工夫したことによって、参加者が協力して進めようとする意欲の高まりが見られたこと。

＊児童自身が身に付けたい力や話し合いの流れを確認して、話し合える手立てを工夫すること。

### 【書くこと部】

文学的文章を書くという活動において

◇0次や文例、実の場のデザインを工夫することで、児童が主体的に学ぶことができたこと。

◇非日常的な言語行為に浸ることで、深い学びへと児童を誘うことができたこと。

＊物語の登場人物との対話、構想段階での自分との対話や友達との伝え合い、記述中や記述後の読み合いなど、様々な段階での友達との対話をさらに充実させていくこと。

### 【読むこと部】

◇第二次で指導した読みの視点が、第三次の学習やその後の読書生活にもつながったこと。

◇学習モデルの活用は、学習の仕方を単元の初めに示したことにより、児童が課題を見通すことができ、めあてやそのために必要な学習をイメージするのに効果的であったこと。

＊深い学びにつなげるための『思考ツール』を活用し、学習してきた内容をつなげて、どう考えを形成させていくかの手立てをさらに講じていく必要があること。

### 【言語部】

◇日常生活や身近な生活文化の中から素材を見付け、学習材として練り上げて単元づくりを行うことで、児童が言葉のよさに気付き、親しむ姿が見られたこと。

◇単元構造図を作成することによって主体的・対話的で深い学びの実現という視点から児童の学びを整理し、意識して指導に当たることができたこと。

＊「授業実践アイデア集」の作成・改善を継続し、指導実践事例を蓄積すること。

副主題が2年目になり、各研究部会がより「主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくり」を追究した結果、上述の成果を得るとともに今後の課題も明らかになった。次年度は、新学習指導要領の全面実施を見据え、さらに研究を進めていく。

# 平成30年度

# 東京都各支部研究主題一覧

支部名	研 究 主 題
千代田	確かな国語の力を育てる ～正しく読み取り、自分の考えをもち、伝え合う学習活動を通して～
中央	思考力・表現力を育てる言語活動の工夫 ～話すこと・聞くことをとおして～
港	主体的・対話的で深い学びが育つ学習指導のあり方
新宿	思いや考えを豊かに表現できる児童の育成 ～書くことの指導を通して～
文京	主体的に読む力を育てる単元と指導の工夫 ～文学的な文章の読みを通して～
台東	主体的・対話的で深い学びの実現
墨田	主体的・対話的な学びを通じた書く力を高める指導法の工夫
江東	豊かな読みの力を育む指導法の工夫 ～文学的教材の指導を通して～
品川	自ら学び豊かに創造する力を育む指導の工夫 ～主体的・対話的で深い学びを実現する「話すこと・聞くこと」の授業づくり
目黒	思考力・表現力及び探究力を高める指導の工夫
大田	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ～読むことのできる能力を育てる指導の工夫～
世田谷	「主体的・対話的で深い学び」を実現する国語教育の創造 ～「書くこと」の指導を通して～
渋谷	新学習指導要領を踏まえた小学校国語科授業の充実 ～文学的な文章の読みを通して～
中野	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導法の工夫 ～説明的な文章の読みを通して～
杉並	思考力・表現力を育てる読むことの指導の工夫 ～対話的な学びを通して～
豊島	主体的・対話的で深い学びが育つ学習指導の工夫 ～読むことを通して～
北	学びに向かう力の育成 ～主体的・対話的で深い学びを目指した指導の工夫～
荒川	国語科における主体的・対話的で深い『学び』を実現する授業改善の工夫 ～「話すこと・聞くこと」を通して～
板橋	自分の考えを広げ深める児童の育成をめざして ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた読むことの指導法の工夫～
練馬	深い学びを促す主体的で対話的な学習指導の工夫 ～文学的文章を題材として～
足立	生きてはたらく国語力の育成 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習課題の設定～
葛飾	言葉の力を育てる学習指導の工夫 ～児童が主体的に学ぶ「読むこと」の単元づくり～
江戸川	生きてはたらく言葉の力を育てる国語教室の創造
八王子	深い学びのある読みの授業 ～文学教材を通して～

立川	児童が主体的・対話的に取り組む 話すこと・聞くことの授業づくり
武蔵野	確かな読みの力をつける指導法の工夫 ～アクティブラーニングの視点をいかした授業づくり～
三鷹	児童が自ら考えを形成し、深い学びを実現するための指導法の工夫
青梅	「主体的に学習に取り組む、思考力、表現力を育てる指導法の工夫」 ～物語教材における交流活動をとおして～
府中	自分の考えをもち、表現し合う子の育成 ～深い学びにつながる語活動の工夫～
昭島	言葉を大切にすることの育成 ～文学的文章の読みにおける指導の工夫～
調布	自分の考えをもち、主体的に表現しようとする児童の育成
町田	言葉を大切にし、自分の思いや考えを表現できる子を育てる指導法の工夫
小金井	主体的な読み手を育てる指導法の工夫
小平	深い学びにつながる指導法の工夫（読むこと）
日野	言葉を大切にし、考えを主体的に表現する児童の育成
東村山	「主体的に読む子供の育成」 ～自分の思いや考えをもたせる指導法の工夫～
国分寺	書く力を高める指導法の工夫
国立	新たな課題を解決する思考力・判断力・表現力の育成 —深い学びにつなげる手立ての工夫を通して—
福生	主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童・生徒の育成 ～見方・考え方を働かせた学びの実践を通して～
狛江	読みを深め、学びを広げることができる児童の育成 ～どの子も意欲的にかかわり合える授業を通して～
東大和	自ら表現し、学び合うことのできる児童の育成
清瀬	思考力・判断力・表現力を育てる国語科の学習指導 ～主体的・対話的な「読むこと」を通して～
東久留米	自分の思いや考えを豊かに表現できる児童の育成 ～読むことを通して～
武蔵村山	確かな読みの力を身に付ける指導法の工夫 ～対話的な学びを通して～
多摩	主体的・対話的で深い学びが育つ学習指導のあり方 ～文学的文章の読みを通して～
稲城	主体的に考え、伝え合い、学びを深める授業の工夫
羽村	自分の考えを伝えることができる児童・生徒の育成（根拠を明確にして）
あきる野	自分の考えをもち、相手に伝える力を育てる ～指導事項を明確にした言語活動の工夫を通して～
西東京	説明的文章を読む力を育てる指導法の工夫 ～「主体的・対話的で深い学び」を目指して～
瑞穂	自分の考えをもって、豊かに表現する指導法の工夫
西多摩	言葉を基にした主体的・対話的で深い学び

# あ と が き

編集部長 小 池 隆 一

平成29年3月に示された次期学習指導要領を受けて新たな副主題を設定し、平成29年度と平成30年度の2年間を継続して、「未来を拓く国語教育の創造 ―主体的・対話的で深い学びが育つ单元づくり―」を主題に掲げました。本冊子は、新しい副主題のもとで研究に取り組んだ2年目の取組をまとめた紀要になります。

新副主題2年目の今年は、移行期間中であることを踏まえつつ、新学習指導要領に則り研究を進めてまいりました。各部会の領域の特性に応じて、①单元作りの工夫と柔軟な学習過程、②児童の学びの向上につながる評価と指導、この2つの観点で具体的な内容を設定し、研究を深めました。各部会の研究の蓄積を反映させるという点で、各部のページの充実を図り編集作業を進めました。本紀要が、未来を拓く国語教育の創造につながり、各学校での授業改善の一助となれば幸いです。

研究紀要第40号の作成にあたり、ご祝辞を頂戴した東京都教職員研修センター小島貴弘企画部長をはじめ、関係各位の皆様から多大なご指導ご支援をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

平成30年度  
第29回東京都小学校国語教育研究大会研究紀要  
平成31年2月発行

編集・発行 東京都小学校国語教育研究会  
会 長 篠 原 敦 子  
発 行 所 東京都小学校国語教育研究会事務局  
足立区立綾瀬小学校 添 野 誠  
〒120-0005 東京都足立区綾瀬3-12-15  
TEL 03-3605-7328  
印 刷 所 株式会社 和 宏 美 術  
〒161-0033 東京都新宿区下落合2-5-16  
TEL 03-3950-8861(代)



